

4. 教員の活動報告

注

1. 「2024年度 教員業績評価シート」(2025年3月収集)による。
2. 上記シートの公開項目のみ掲載。

4-1. 行動学系

講座名等	教員氏名
人間行動学	入戸野 宏
	石田 海
	篠原 一光
	木村 司
	三浦 麻子
	綿村 英一郎
	仁科 国之
	権藤 恭之
	中川 威
	三好 恵真子
	青野 正二
	小林 清治
	中井 宏
	伊藤 篤希
行動生態学	鹿子木 康弘
	萩原 広道
	八十島 安伸
	西村 剛
	松井 大
	山本 倫生
	中野 良彦
	設楽 哲弥
	勝 野吏子
附属比較行動実験施設	山田 一憲

※計 24 名 掲載順

所属学系：	行動学系	氏名：	入戸野 宏
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

学会発表を行い、複数の国際誌に論文を掲載するように大学院生を指導した。指導した博士後期課程の学生が日本学術振興会から育志賞を受賞した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

昨年度に引き続き、科学研究費補助金基盤研究(A)により、「かわいい」感情についての研究を行った。研究成果は国際誌に掲載されるだけでなく、メディアでたびたび取り上げられた。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

講演やメディア出演などを通じてアウトリーチ活動を行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

入試関係の業務を行った。

所属学系：	行動学系	氏名：	石田 海
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

ありません。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

第15回日本学術振興会 育志賞受賞。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本生理心理学会編集委員会の編集委員長補佐を務める（2024年10月から現在まで）。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

ありません。

所属学系：	行動学系	氏名：	篠原 一光
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

大学院生を指導し、学会発表と論文投稿を行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- ・独立行政法人から受託研究契約を得て、他大学の研究者と協働して運転適性検査の研究を継続して実施した。
- ・企業との共同研究契約を得て、自動車のインタフェースの視認しやすさに関する研究を実施した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・国交省道路交通環境安全推進連絡会議アドバイザー会議委員長（奈良）・委員（大阪）
- ・日本自動車連盟奈良支部交通安全実行委員会委員長
- ・製品評価技術基盤機構・事故動向等解析専門員会委員
- ・第2回医療安全心理・行動学会学術総会（大阪大学）共同総会長。
- ・日本応用心理学会編集委員会委員
- ・（一社）交通科学研究会理事

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

[人間科学研究科]

- ・副研究科長
- ・施設マネジメント委員会委員長
- ・ハラスメント防止委員会委員長
- ・全国人間科学系部局ネットワーク運営委員会代表補助者

所属学系：	行動学系	氏名：	木村 司
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

受賞：

1. 日本心理学会第 88 回大会学術大会特別優秀発表賞「創造性に対する屋内運動・屋外運動の効果—主観・行動・生理指標からの検討—」

外部研究資金の受入：

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究「内受容信号処理に対する文脈効果」
2. 公益財団法人電気通信普及財団 研究調査助成「生体信号を用いた「誤解のない」オンラインコミュニケーションシステムの開発」

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

学会活動：

1. 日本生理心理学会編集委員会事務局編集委員長補佐
2. 日本生理心理学会若手会幹事代表

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

部局管理運営：

1. 行動学系 HP/ML/ODINS 担当

行動学系の web ページ，メーリングリスト，ネットワークの管理，更新を担当した。

2. 研究参加登録システム運営 WG

行動学系で運用する研究参加登録システム (SONA システム) のワーキンググループとして運営に関する議論を行った。

所属学系：	行動学系	氏名：	三浦 麻子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

人間行動学実験実習 II で取り組んだ自主研究「そのネタ本当にバズってますか？サイレントマジョリティを可視化する「スルーメーター」の開発」が NHK 財団「インフォメーション・ヘルスアワード 2024」で奨励賞を受賞した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

新規に科研費挑戦的萌芽「COVID-19 感染禍における集合的記憶の伝承：学術データに基づくナラティブの作成と公開」を獲得した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本学術会議 連携会員
 日本学術振興会学術システム研究センター 専門研究員
 日本心理学会教育研究委員会心理統計標準カリキュラム作成小委員会 委員長
 日本グループ・ダイナミクス学会 理事
 心理学評論 編集委員
 JST さきがけ「パンデミック社会基盤」アドバイザー
 JST ムーンショット型研究開発事業目標 9「2050 年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」アドバイザー
 JST 研究倫理映像教材制作委員会 委員
 兵庫県赤穂市 市政特別アドバイザー
 原子力安全システム研究所社会システム研究所研究企画会議 委員
 朝日新聞「コメントプラス」コメンテーター

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

大阪大学総長補佐（研究オフィス担当）
 大阪大学感染症総合教育研究拠点科学情報・公共政策部門 副部門長，人間科学ユニット ユニット長
 人間科学研究科 評価資料室長

所属学系：	行動学系	氏名：	綿村 英一郎
-------	------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

学部生・大学院生と共同で、民間の研究助成団体に申請書を提出した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

1. サントリー文化財団「学問の未来を拓く」から助成を受けることができた。
2. 研究プロジェクトの成果を無料コミックとして社会向けに出版した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

1. 国際交流として、国立台湾大学の研究者を招待しセミナーを行った。
2. 2024年10月より、法と心理学会の副理事長として学会活動に貢献しており、また同年の大会準備委員を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

公認心理師プログラム運営室の副室長

所属学系：	行動学系	氏名：	仁科 国之
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

授業の一環として、応募した「第2回インフォメーション・ヘルスアワード」にて実験実習受講生（院生含む）が特別賞を受賞した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

文部科学省共同利用・共同研究拠点玉川大学脳科学研究所「社会神経科学研究拠点」の共同研究公募に採択された。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

次世代の人間科学研究会の運営委員として研究会の企画・運営を行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	行動学系	氏名：	権藤 恭之
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

地域高齢者と関わりを持つ機会（老いとも）の実施。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

日米共同研究（パンデミックによる社会的孤立のアクティブセンシングと個別化介入）、および日仏共同研究（INOVCARE）に参画

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

朝来市役所健幸づくり推進協議会会長、日本心理学会講演・出版等企画小委員会 小委員長、日本学術会議連携委員、で活動

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

学生相談室室長として活動、同窓会幹事として活動

所属学系：	行動学系	氏名：	中川 威
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

「学問の扉（老年学の誘い）」において、兵庫県伊丹市および朝来市で実施している高齢者を対象にした調査に学部学生を受け入れ、高齢者と大学生が交流するフィールドワークを取り入れた教育活動を行なった。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

以下の研究費を新規に受け入れた。

- ・ 明治安田こころの健康財団 研究助成（研究代表者）
- ・ 科学研究費（基盤 B） 要介護者の幸福感向上モデル構築のための縦断的研究：関連要因とその社会的影響の解明（研究分担者）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

国際交流活動

- ・ Ching-Ju Chiu 教授（National Cheng Kung University）を招聘し、学内で研究会を開催

社会教育活動

- ・ 日本心理学会 公開シンポジウムにおいて講演を実施
- ・ 日本臨床心理士会 高齢者支援研修会において講演を実施

学会活動

- ・ Psychology and Aging 編集委員
- ・ Acta Psychologica 編集委員
- ・ 日本老年社会科学会 理事

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

- ・ 行動学系幹事教授補佐
- ・ 教育国際化推進委員会委員

所属学系：	行動学系	氏名：	三好 恵真子
-------	------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

現在、副プログラムコーディネーターとして関わっている超域イノベーション博士課程プログラムが、業績名「全研 究科横断型博士人材教育の先駆事例確立」にて令和 6 年度大阪大学賞（教育貢献部門）を受賞した。また同プログラム は、内閣府第 3 回総合知活用事例にも採択された。来年度から同プログラムの部門長・プログラムコーディネーターを 担当する予定である。博士後期課程の院生 1 名が、学際融合を推進し社会実装を担う次世代挑戦的研究者育成プロジェ クト生に採用された。また博士後期課程に内部進学する留学生 2 名のうち 1 名が超域イノベーション博士課程プログラ ムの Advanced コースに合格し、もう 1 名が人文社会科学系オナー大学院プログラムの履修生として採用された。本年 度の日本生活学会生活学プロジェクト助成に院生が代表となるプロジェクトが 3 件採択された。博士号取得者を 2 名輩 出し、双方ともに次年度の日本生活学会の大会シンポジウムの登壇者に選ばれた。博士後期課程の院生が、長崎の証言 の会（編）の共著を出版した。所属院生たちが国内外の学会発表を精力的に行い、学術雑誌（査読有含）に複数本掲載 された。院生との共編書を出版した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

グローバル日本学教育研究拠点における「拠点形成プロジェクト」に、研究代表として採択されている「21 世紀課題群 と東アジアの新環境:実践志向型地域研究の拠点構築」の総括である第 3 回シンポジウムを一般公開にて開催し（オンラ イン開催 with Zoom）、国内外から 100 名の参加者が結集した。シンポジウムの総括を OUFU (Osaka University Forum on China) Booklet として刊行し、OUKA にも掲載した。公益財団法人 JFE21 世紀財団 2024 年度大学研究助成のア ジア歴史研究助成部門に研究代表であるプロジェクト「ポスト体験時代の記憶の継承：アジア地域史の視座からの共振 する戦争・戦後体験」が採択された。4 月から新たに立ち上がる「大阪大学カーボンニュートラル連携機構」のグループ 「カーボンニュートラルを実現する社会システム」の一員としてテーマを享受し、準備を始めた。IMPACT オープンブ ロジェクト「記憶の継承を祈念するグローバル・ダイアログ（記憶の継承ラボ）」において、学生主体により様々なフ ィールドでの活動を精力的に行った。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

各種学会(資源素材学会, 日本レオロジー学会, 日本現代中国学会, 日本生活学会, 日本地球化学会, 廃棄物循環資源 学会, 社会文化学会, 日本オーラルヒストリー学会, 政策情報学会, 美学会等)に所属し、学会運営、学会発表・論文査 読等へ貢献した。国際誌や所属学会以外の学術誌の査読者、科学技術振興機構(JST)の「総合知」関連の査読・専門委員、 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員等を務めた。日本生活学会の理事・学術委員並びに日本現代中国学会の理事 兼事務局を務め、生産技術振興協会の編集委員として尽力した。長崎、沖縄の平和活動に携わる実践者との交流を深め、 共著を出版した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

学際大学院推進機構、CO デザインセンター、グローバル日本学教育研究拠点、理学研究科附属フォアフロント研究センターの4つの組織の兼任教員として尽力し、来年度はカーボンニュートラル連携機構の兼任教員にも加わるようになった。超域イノベーションプログラムの副プログラムコーディネーターと総務WG 主査を務め、来年度は部門長に就任する予定である。部内では、財務会計委員会の委員長、研究倫理審査委員会を務めるとともに、ハラスメント防止委員・ハラスメント相談員として健全な環境整備に助力した。IMPACT 運営委員として、OUMP 実現加速事業の推進・活性化に助力した。男女協働推進WG で長年取り組んできた学業・子育て両立支援に関する奨学金制度を教育改革推進室への引き継ぎを行った。

所属学系：	行動学系	氏名：	青野 正二
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	行動学系	氏名：	小林 清治
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

特になし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

特になし

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

特になし

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

特になし

所属学系：	行動学系	氏名：	中井 宏
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

内閣府 中央交通安全対策会議専門委員

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	行動学系	氏名：	伊藤 篤希
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

行動学系若手セミナーシリーズ実行委員会

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	行動学系	氏名：	鹿子木 康弘
-------	------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

研究員 2 名、院生（博士後期課程 2 名、博士前期課程 3 名）、学部 4 年生 5 名、3 年生 4 名を主教員として指導した。院生による学会等の発表は国際学会（ポスター発表 4 件）と国内学会（RT 発表 1 件、口頭発表 2 件、ポスター発表 9 件）で計 16 件あり、研究員による学会発表は（国際学会 1 件、国内学会 2 件）で合計 3 件であった。また修士論文 1 件、卒業論文 5 件が提出された。

博士後期課程 1 年と 2 年の学生が筆頭の論文が伝統のある国際誌（Journal of Experimental Child Psychology）にそれぞれ掲載された。また以前に卒業した学部生の卒論が伝統ある国際誌（Infancy）に（筆頭ではないが）、別の学生は筆頭で国際誌（Social Development）に掲載が決まった。他には、修士を卒業した学生 2 名の修士論文が発達心理学研究、心理学研究にそれぞれ掲載された。また研究員のレビュー論文も心理学研究に掲載予定である。他にも、博士後期課程の学生が 3 本、博士前期課程の学生が 1 本、研究員が 1 本、国際誌に論文を投稿している。

また D1 の学生が赤ちゃん学会で発表賞を二年連続で受賞し、同じ D1 の学生が関西心理学会で発表賞を授与された（こちらも人は変わるが二年連続）。さらに D2 の学生が、日本心理学会で学術大会優秀発表賞を授与された。以上の取り組みからわかるように、学生に国内外問わない業績をださせるように心がけている。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

国際誌に 7 報の原著論文、国内誌にレビュー論文を 1 報、コメント論文を 1 報、原著論文を 2 報掲載することができた。

外部研究資金としては、JST のムーンショット 9、JST 未来社会、デンソーだけでなく、基盤研究 A を 2 つ、基盤 B1 つ、基盤 C1 つの分担を担当した。株式会社デンソーとの共同研究は継続し、来年度は 700 万の共同研究費を受ける予定である。また新たに基盤 S と基盤 B の分担も担当することになった。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本認知科学会の編集委員・運営員、赤ちゃん学会評議員・理事、関西心理学会委員、JPR 編集委員は継続中である。また国際誌の査読を計 6 件行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

動物実験委員、障がい学生修学支援委員、公認心理師運営委員、運営委員、研究推進室室長を担当したが、特に公認心理師運営委員において部局への貢献（前者は公認心理師プログラムの運営や実習の付き添い、会議への参加などがある）があったと思われる。研究推進室室長としては学内予算の配分や情報研究科との研究会の取り仕切りを行った。また、大阪大学先導的学際研究機構 共生知能システム研究センター(SISReC)の認知脳科学研究グループメンバーも継続している。

所属学系：	行動学系	氏名：	萩原 広道
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

「学問への扉」にて実施した「大学生を体験するボードゲームの開発と研究」が端緒となり、ボードゲーム教材「DAIGAKU」を開発・販売した。大阪大学公式クラウドファンディングにて製品化に向けた資金を調達し、日本最大のボードゲームイベント「ゲームマーケット」への出展をはじめ、多数のイベントに企画者・出展者として関わった。さらに、分野を越えた交流を促進するために「行動学系若手セミナーシリーズ」を企画・運営した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

発達心理学の一流国際誌 *Developmental Science*、行動科学の方法論に関する一流国際誌 *Behavior Research Methods* に筆頭論文が採択された。前者はプレスリリースを行った。単著本『子どもとめぐることばの世界』（ミネルヴァ書房）が刊行され、アウトリーチのための講演会を多数実施した。さらに、「大阪大学賞・若手教員部門」「Many Babies Certificate of Achievement」等を受賞した。研究資金についても、基盤研究(B)、外国人招へい研究者（短期第1回）に採択された。大阪大学研究推進部研究企画課研究企画係“はばたく次世代”研究者育成3職協働プログラム 異分野融合研究プロジェクトにも人間科学研究科で唯一、代表として採択された。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

発達心理学会インターネットニュース委員会の委員長に就任し、投稿方法を刷新した。さらに、保育園・高等学校・特別支援学校などで模擬授業や講演を多数実施した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

大阪大学大学院人間科学研究科 大阪大学 FD 研修／新任教員研修プログラムとして、行動学系若手セミナーシリーズの実施、およびボードゲーム教材「DAIGAKU」を用いた研修の実施を行った。特に後者のボードゲーム教材を用いて、図書館との合同イベントやオープンキャンパスでの出展を行った。大阪大学大学院人間科学研究科、公認心理師プログラム運営室の室員として、乳幼児領域における実習先の開拓を行った。

所属学系：	行動学系	氏名：	八十島 安伸
-------	------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

- ・海外からの留学生（大学院学生）2名を指導した。
- ・自主ゼミのスーパーバイザーを行い、ラボメンバーの自学自習を促した。
- ・基礎工学部の授業を2回担当した。
- ・生命機能研究科の兼任教員として大学院学生5名を指導した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

招待解説記事（和文）を1編執筆した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・第21回鹿児島県健康教育研究大会で特別講演を行った（2025年2月7日；運営主催者・鹿児島県教育庁保健体育課健康教育係）。
- ・2024年度新潟県栄養士会生涯教育研修会で講演したオンデマンド型の講演を行った（2024年8月16日・2024年8月22日；運営主催者・公益社団法人新潟県栄養士会）。
- ・大阪船舶倶楽部講演会で講演を行った（2024年5月31日；運営・朝日カルチャーセンター大阪本部 中之島教室）
- ・野田学講義の講師を務めた（2025年2月27日；岩手県野田村主催）
- ・日本味と匂学会第59回大会（2025年9月開催）の大会長・事務局長として大会準備を行った。
- ・複数の国際学術ジャーナル（Chemical Senses, Journal of Nutritional Science and Vitaminology）等の査読者を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

- ・超高压電子顕微鏡センター運営委員会委員
- ・基礎工学研究科における人を対象とした研究に関する倫理委員会委員

所属学系：	行動学系	氏名：	西村 剛
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
特になし。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
<p>科研費・基盤 A2 4 H 0 0 5 7 6 「ヒトの話しことばの声帯振動制御の霊長類的基盤に関する実験的研究」（代表、2024-2028）の採択</p> <p>科研費・基盤 B 「二足歩行と大脳化の進化における協調：頭蓋骨と骨盤形態の共変異分析」（分担、2023-2027）</p> <p>科研費・基盤 B 「実体模型、摘出喉頭、数理モデルによる声帯膜の不安定振動の解明と、言語進化への展開」（分担、2023-2026）</p> <p>科研費・基盤 C 「発声及び表情の統合的制御に関わる神経回路の研究」（分担、2023-2025）</p> <p>三菱財団・自然科学研究助成「話しことばと嚥下の共進化プロセスに関する実験的研究」（2023-2024、代表）</p> <p>日本哺乳類学会大会ポスター賞受賞「テナガザル科における内喉頭筋群の3D形態モデルを用いた比較」（八神未千弘*・西村剛）*学外の指導学生</p> <p>文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門) 受賞</p>

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
<p>一般社団法人日本霊長類学会理事(経理)、代議員</p> <p>一般社団法人日本人類学会監事(-2024/10)、代議員、進化人類学分科会幹事、第78回大会実行委員</p> <p>JST 創発的研究支援事業 斎藤パネル・創発アドバイザー</p>

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
特になし。

所属学系：	行動学系	氏名：	松井 大
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

学部3年次演習にて、深層学習技術を応用した先端的な動物の行動解析ソフトを利用した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費 若手研究「行動の自動性の生成基盤：過食を誘発する制御要因に関する行動神経科学的研究」の助成を受けた。
 関西心理学会 第135回大会にて研究奨励賞を受賞した（演題は「走光性は目標指向的か？—ナイカイトウウズムシを用いた予備的検討—」）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本動物心理学会の編集委員幹事を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	行動学系	氏名：	山本 倫生
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

研究室における教育については、研究成果の国際会議での発表を積極的に支援し、今年度は研究室の学生が国際会議で3件の発表を行った。また、講義では、受講生の理解を深めるために講義を録画した動画や講義中の手書きノートを公開するなど、様々なサポートを行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

以下の研究費の受け入れを行った。

科学研究費補助金 基盤研究(B)（研究分担者）「新たな複雑系データのための関数データ解析手法の開発と適用」（課題番号：23H03352）

科学研究費補助金 基盤研究(C)（研究代表者）「スパース経時データのクラスタリング法の開発と臨床医学への応用」（課題番号：21K11787）

科学研究費補助金 基盤研究(B)（研究分担者）「健康関連時空間データにおける複数クラスタのモデリング・検出・評価法の開発」（課題番号：21H03402）

共同研究について以下のように受賞した。

[1] 日本計算機統計学会 38 回シンポジウム 学生研究発表賞

・対象となった研究発表:

橋本捷矢, 山本倫生. "DAG-NoCurl に基づく潜在因子間の因子構造推定法の開発". 日本計算機統計学会第 38 回シンポジウム, 能楽堂ホール tenjin9・岡山市立オリエント美術館, 2024 年 10 月 24 日-26 日.

[2] 日本行動計量学会第 52 回大会 優秀スチューデントポスター賞受賞

・対象となった研究発表:

坪田有司, 山本倫生. "非対称なリンク関数に基づく因果媒介分析手法の提案". 日本行動計量学会第 52 回大会, 大阪経済大学, 2024 年 9 月 10 日-13 日.

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

以下の各委員として、社会貢献活動を行った。

Consulting Editor for British Journal of Mathematical and Statistical Psychology

Associate Editor for Behaviormetrika

Associate Editor for Japanese Journal of Statistics and Data Science

学術雑誌「データ分析の理論と応用」編集委員会委員

学術雑誌「行動計量学」編集委員会委員、副委員長

日本行動計量学会 運営委員会委員

日本行動計量学会第 52 回大会 副実行委員長

日本行動計量学会 岡太彬訓研究助成選考委員会委員

理化学研究所 革新知能統合研究センター 客員研究員

滋賀大学 データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター 特任准教授

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

以下の委員として、大学管理運営に貢献した。

教務委員会委員

財務会計委員会委員

産学官連携問題委員会委員

情報セキュリティ委員会委員

サイバーメディア室担当

2024年度入学生クラス担任

所属学系：	行動学系	氏名：	中野 良彦
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

第 78 回日本人類学会大会を大会長として梅田スカイビルにて開催し、公開シンポジウムを人間科学研究科との共同主催で大阪大学中之島芸術センターで開催した。

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	行動学系	氏名：	設樂 哲弥
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
<p>【研究費】科学研究費 若手研究 「比較生物学的アプローチと精密筋骨格モデリングから紐解くヒト中殿筋の二足歩行適応」</p> <p>【共同研究】京都大学ヒト行動進化研究センター 2024年度共同利用研究 一般研究「霊長類の中殿筋の配置は樹上歩行に適応的か：非霊長類との比較から」</p> <p>【受賞】大阪大学賞 若手教員部門 「人類進化史における中殿筋の機能変容に関する研究」</p> <p>【論文（共著）】Takafumi Fujiwara, Kohta Ito, Tetsuya Shitara, Yoshihiko Nakano (2025) "A three-dimensional kinematic analysis of bipedal walking in a white-handed gibbon (<i>Hylobates lar</i>) on a horizontal pole and flat surface" <i>Primates</i>, 66, 189-206</p> <p>【論文（共著）】Ryosuke Goto, Susan Larson, Tetsuya Shitara, Yu Hashiguchi, Yoshihiko Nakano (2024) "Muscle synergy in several locomotor modes in chimpanzees and Japanese macaques, and its implications for the evolutionary origin of bipedalism through shared muscle synergies" <i>Scientific Reports</i>, 14, 31134</p> <p>【学会発表（筆頭）】設樂哲弥, 平崎鋭矢, 時田幸之輔, 中野良彦「筋作用から考えるヒト中殿筋の二足ロコモーションへの最適化：ヒトに四足歩行をさせてみると？」第78回 日本人類学会大会（大阪市）2024年10月13日</p> <p>【学会発表（共同）】藤原峻宇, 設樂哲弥, 伊藤幸太, 有竹環, 中野良彦「ヒト・テナガザルのポール上二足歩行から推定する初期人類の樹上二足歩行」第78回 日本人類学会大会 キネシオロジー分科会主催シンポジウム「直立二足歩行への適応と進化研究の展望」（大阪市）2024年10月13日</p> <p>【学会発表（共同）】安富祐人, 設樂哲弥, 中野良彦「ヒト、ニホンザル二足歩行時の矢状面内における体幹内部の協調性の比較」第78回 日本人類学会大会（大阪）2024年10月13日</p> <p>【学内発表】設樂哲弥, 「精密筋骨格モデリングから紐解くヒトの骨盤の形態的合理性：中殿筋の筋作用に見る側方安定性への適応」第4回人間科学研究科・情報科学研究科交流会 2024年5月16日</p> <p>【学内発表】設樂哲弥, 「サルから学ぶヒトのよくできた身体構造 ヒトはなぜ二足で歩けるのか？」行動学系若手セミナーシリーズ#01（人間科学セミナー）2024年4月25日</p>

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
・学生団体「inochi Gakusei Innovators' Program Kansai」にて、講師として中高生を対象に出前授業を行った(2024/8/11 @グランフロント大阪)。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	行動学系	氏名：	勝 野 吏 子
-------	------	-----	---------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

大学院生が筆頭の論文が 2 件、国際誌に受理された。大阪府動物愛護管理センター等の外部機関と協力し、学部・大学院生が研究活動を行った。

生きているミュージアムニフレルにおいて、ニフレル職員と大学院生との合同研究会を昨年引き続き実施した。行動学系 2 年生が受講する実験実習 I について、ニフレルと協力し行動観察実習を行った。

12 月に海外からの招聘研究員による比較行動学セミナー（公開・英語）を行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

今年度 10 月から日本学術振興会海外特別研究員を受け入れ、霊長類の認知科学に関する国際共同研究を開始した。

昨年に引き続き、科研費若手研究（代表）、基盤 S（分担）を受け入れ、ニホンザルのコミュニケーションに関する観察・実験研究を行った。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

アウトリーチ活動として、生きているミュージアムニフレルと合同で一般来園者に向けた動物行動観察ワークショップを行った。

日本霊長類学会の理事として保全・福祉関連活動を担当した。同学会において、若手研究者等に対して、フィールドワークに関する安全啓発活動も行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

未来共創センター運営委員、学部・大学院入試

所属学系：	行動学系	氏名：	山田 一憲
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

ニフレル（株式会社海遊館）や大阪府動物愛護管理センターと学術交流協定を締結し、これらの施設において学生が動物の行動研究を行うことができた。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

3つの野猿公苑にて、安全にフィールドワークを実施することができた。ニホンザルの分布の分断が著しい九州北部・中部地域で調査を実施し、ニホンザル地域個体群の保護管理に重要な情報収集を行った。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

行動観察の楽しさを普及させるために、観察会や講演といった企画を17件行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

後期は、神庭の滝ニホンザル観察所に毎週出向いて勝山ニホンザル集団の管理を行った。

4-2. 社会学・人間学系

講座名等	教員氏名
社会環境学	川端 亮
	CROYDON Silvia
	遠藤 知子
	山田 陽子
	吉川 徹
	五十嵐 彰
	山中 浩司
	辻 大介
	三谷 はるよ
社会学系共通	岡田 玖美子
	齋藤 僚介
基礎人間科学	森田 邦久
	村上 靖彦
	野尻 英一
	福岡 まどか
	白川 千尋
	森田 敦郎
	鈴木 和歌奈

※計 18 名 掲載順

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	川端 亮
-------	----------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

最後の院生が課程博士を取得することができ、院生を残すことなく退職することができる。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研 B（一般）「共創知による分断社会の超克から共生へー人文学／社会科学 2.0 へのアップデート」の研究を進めた。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

オープンプロジェクト緒方らぼの活動である一般社団法人 NEO のむらの学生たちが朝日新聞社主催の「SDGs ACTION! AWARDS」でオーディエンス賞を受賞した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

なし

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	CROYDON Silvia
-------	----------	-----	----------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	遠藤 知子
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費 基盤研究(C) (2021-2024)

科研費 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）(2021-2025)

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

協同総合研究所の理事を務めた

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

部局内委員として教務委員を務めた

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	山田 陽子
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

1. 学部4年生を対象とする「卒論演習」「卒業研究」では、吹田市の子育て支援センターにて、子育て世代を対象としたフィールドワークとインタビュー調査を実施した。
2. 指導を担当する学部4年生が、2025年3月、原子力規制庁の原子力人材育成等推進事業費補助金「社会との共創による原子力規制人材育成プログラム」の助成金を得て、国際会議 RUG-OU student symposium 2025（オランダ）に出席し、研究報告をおこなった（使用言語：英語）。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

■著書

山田陽子, 2024, 『ポスト・ヒューマン時代の感情資本』 De-Silo Label Books.

■外部研究資金の受入状況

1. 科研費 基盤研究 B (22H00904) 「集合意識から情動の社会学へ—デュルケム社会学の現代的展開」の研究分担者として研究を遂行し、成果を上げた。
2. IMPACT オープンプロジェクト「多様性の中のウェルビーイング」の研究代表者として研究を遂行し、成果を上げた。
3. 一般社団法人デサイロより奨学寄附金を受け入れ、「ポスト・ヒューマン時代の感情資本」をテーマとする研究を遂行し、成果を上げた。

■査読（海外出版社）

Palgrave macmillan 社の社会学の専門書（英語）の出版企画について、査読委員を担当した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

■国家行政の委員

2024 年度より、文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センターの専門調査員に就任している。

■学会活動

1. 関西社会学会事務局担当理事として学会運営にあたり、年2回の学会ニューズレターの編集と発行等の業務を遂行した。
2. デュルケム/デュルケム学派研究会世話人として、年2回の全国規模の研究会の開催・運営業務に中心的な役割を果たした。
3. 科学社会学会第13回大会実行委員として、大阪大学人間科学研究科での学会大会開催・運営業務に従事した。

■産官学連携

1. 株式会社 KonMari Media に、助言・指導、専門知の提供をおこなった。
2. 株式会社博報堂に、助言・指導、専門知の提供をおこなった。

■学外の共同実践活動

1. 一般社団法人デサイロ「山田陽子×木原共 トークセッション」に出演し、研究報告と開発したアプリの実演発表をおこなった。
2. 一般社団法人 for Cities, YAU（有楽町アートアーバニズム、主催・三菱地所株式会社）が主催する「Urbanist Camp

Tokyo 2024 Emotional City: 経済理論を超えて、都市の“感情価値”を高めるには」に講師として参加し、講演「都市と感情」をおこなった。

3. 研究代表をつとめる IMPACT オープンプロジェクト「多様性の中のウェルビーイング」と、国際障害者交流センタービッグ・アイと共催で「ビッグ・アイ アーツセミナー × 阪大 『みえない世界を表現する 中川圭永子の世界』」を企画し、運営に携わった。

4. 研究代表をつとめる IMPACT オープンプロジェクト「多様性の中のウェルビーイング」と、「生き方と死に方を考える社会フォーラム」との共催で、「人の最期を考える」という講演とシンポジウムを企画し、運営に携わった。

■学内の共同実践活動

1. 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ主催の第7回 SSI 研究者フォーラム 『「いきること」をめぐる境界線を考える』にて、講演「感情資本主義社会を生きる」をおこなった。

2. 大阪大学人間科学研究科附属未来共創センター主催の第2回テーマ研究会にて講演「社会学共創を考える」をおこなった。

3. 大阪大学まちかね CAFÉ 企画委員会主催の第46回まちかね CAFÉ— 21世紀課題群をめぐる文理の対話にて、講演「感情資本主義社会」をおこなった。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

■部局内委員会

1. ハラスメント防止委員会 委員

2. IMPACT 運営委員会 委員

3. 2026 年度 3 年次編入試験・専門科目の作問責任者として作問ととりまとめの責務を全うした。

■全学での貢献

1. 2026 年度総合型選抜 入試問題作問委員

2. 大阪大学企画部広報が発行する『大阪大学 News Letter』の取材に協力し、記事として取り上げられた。記事名：「先端研究：働くあなたの「心」は誰のもの？ 現代の息苦しさを感情資本主義で解きほぐす」大阪大学企画部広報課 『大阪大学 NewsLetter』 No.91, pp.4-5, 2024 年 9 月 27 日。

web 版：https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/story/2024/nl91_research02

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	吉川 徹
-------	----------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

社会調査士連絡責任者として科目申請、学生の社会調査士・専門社会調査士の資格申請を取りまとめている。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科学研究費補助金研究 基盤研究(A)の研究代表者として R6 年度の補助金交付内定を受けた。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

島根県立大学法人評価委員、文部科学省の審査委員、NHK 放送文化研究所レビュー委員、日本社会学会理事、日本社会学会社会学評論編集委員長、社会調査協会理事、関西社会学会理事、APRIN 人文学・社会科学系分科会委員、統計数理研究所公募型共同研究 ROIS-DS-JOINT 審査委員、教育社会学会理事、学術同人誌ソシオロジ編集委員

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

財務会計委員、博士論文受理検討委員長

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	五十嵐 彰
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

社会学のトップジャーナルといえる *Social Forces, European Sociological Review* に査読付き論文が掲載された。科研費の若手研究に採択された。

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

千葉県酒々井町・香取市にて人権に関する調査を実施し、酒々井町にて結果を取りまとめた市民セミナーを行った。

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

学生支援室にて、委員業務を行い、講師人事委員会として人事を行った。学係内の倫理委員会にて毎月倫理審査を行った。

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	山中 浩司
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
学部 卒論主査5本、共通教育非常勤6科目の世話教員 大学院 修士論文主査1本、高度副プログラム「ユネスコチェア」の運営、「生命倫理学」授業担当（医学系研究科 医の倫理教室兼任）、「大阪大学の歴史」授業担当（適塾記念センター兼任）、「社会における科学技術特定演習」担当（STiPS科目）

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
科研費研究「慢性疾患における病の社会的地位」（基盤C，代表）「学際的アプローチによる精神科病棟看護における自己決定支援の視点・要件の可視化」（基盤C，分担）、RISTEX-ELSI/ELSIプログラム「公正なゲノム情報利活用のELSIラグを解消する法整備モデルの構築」（分担実施者）などの実施。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
科学社会学会大会主催（9月8日、人科）、放送大学授業担当、IMPACTプロジェクト「多様性の中のウェルビーイング」イベント開催（2024.8.24 中之島センター）生き方死に方を考える社会フォーラム開催（2025.3.16 中之島センター）、吹田市男女共同参画審議会審議委員

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
図書室長、ハラスメント相談室専門アドバイザー、UNESCO Chair 運営室長、本部人事との就労支援研究会主催、障がい者雇用促進ワーキンググループ委員

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	辻 大介
-------	----------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費基盤 A「ネット社会における〈民主主義デバイド〉の実証研究」（2022-2024 年度）の研究代表を務め、2 時点にわたる全国パネル調査を完了した。

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

総務省「安心・安全なメタバースの実現に関する研究会」構成員、大阪市「同和問題に関する有識者会議」委員、関西社会学会編集委員会専門委員

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

入試委員（全学）、運営会議委員（部局）、図書室長（部局）、施設マネジメント委員（部局）、情報セキュリティ委員（部局）、サイバーメディア室委員（部局）

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	三谷 はるよ
-------	----------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

筆頭の国際誌論文が掲載された。

Mitani H, Kondo N, Amemiya A, and Tabuchi T. Promotive and protective effects of community-related positive childhood experiences on adult health outcomes in the context of adverse childhood experiences: a nationwide cross-sectional survey in Japan. *BMJ Open* 2024; 14(6): e082134.

単著書（『ACE サバイバー——子ども期の逆境に苦しむ人々』）の韓国翻訳版が出版された。

『트라우마 사회심리학——아동기 부정적 경험, ACE 생존자와 회복탄력성』

미타니 하루요三谷はるよ

포다른우주 2024年5月5日 (ISBN: 9791193281086)

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

民間団体、行政機関、大学等での講演を14件行った。

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	岡田 玖美子
-------	----------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

2024年7月 日本学術振興会 科学研究費助成事業 「研究活動スタート支援」獲得（課題名「夫婦間の性愛をめぐる同意形成プロセスとジェンダー秩序」）

2024年12月 南山大学社会倫理研究所「第18回 社会倫理研究奨励賞 審査員賞」受賞

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）第7期アーリーキャリアWGメンバー

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

社会学・人間学系倫理審査委員会事務局

年報人間科学事務局

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	齋藤 僚介
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

[論文]Role of Type 2 Processing in the Suppression and Expression of Prejudice: An Analysis Using the Implicit Association Test and Response Times with Japanese Data

Ryosuke Saito, Hiroki Takikawa, Kimihiro Shiomura, Shunsuke Tanabe, Kikuko Nagayoshi

The Sociological Quarterly 65(4) 627-649 2024 年 10 月 査読有り 責任著者

[受賞]

第 15 回数理社会学会論文賞（「主観的経済状況による排外主義的ナショナリズムの説明：ナショナリズムの類型に着目して」『社会学評論』74(3) 486-501）

齋藤僚介

[学会発表]

齋藤僚介「いかなる権力関係がデマ受容を促すか？：バランス理論による予測の検証」2024 年度日本選挙学会総会・研究会 2024 年 5 月 19 日

齋藤僚介「態度・意識の類型あるいは分布と極端な行為」第 77 回数理社会学会大会 2024 年 8 月 30 日 招待有り

齋藤僚介, 五十嵐彰「誤認知の修正によって態度は変わるか？：潜在的偏見と顕在的偏見の不一致に着目して」第 77 回数理社会学会大会 2024 年 8 月 31 日

五十嵐彰, 齋藤僚介「差別認識の多様性：アメリカの白人と黒人に対する調査」第 78 回数理社会学会大会 2025 年 3 月 13 日

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	森田 邦久
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

春日丘高校への出張講義

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

超域イノベーション博士課程プログラム研究代表者及びプログラム担当者
財務会計委員

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	村上 靖彦
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

なし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

なし

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

なし

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

なし

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	野尻 英一
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

学部二年生向け専門科目「文明動態学」で今年は特に受講者が多かった（80名超）。レビューシートへの書き込みが非常に熱心なものが多く、長大な書き込みを毎回行う学生も見られた。教員からのコメントも合わせて、双方向のやりとりの文字量がかつてなく多く、活発な授業となった。学部ゼミから推薦入試により大学院に進学する学生1名があった。学部ゼミへの進級者が二年連続で5名となり、比較文明学演習室のスペース容量が不足したため、壁撤廃によるスペース確保を計画している。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

今年度は大型資金、国際共同研究加速基金（国際先導研究）の受け入れによる「国際和解学の探求」プロジェクトが始動し、海外学会での発表、若手研究者育成のための研究会開催（12回）、海外著名研究者を招へいしてのワークショップ開催（2回、計3日間）と高い頻度で濃密な活動を行った（英語での活動）。また基盤研究B科研費（スラヴォイ・ジジェク思想基盤の解明）では研究代表者を務め、20名以上のメンバーからなる学際的かつ大学間的研究チームを率いて、三班の組織構成により活発に活動を行っている。2024年度は研究会を10回おこなった。国際学術誌 *International Journal of Zizek Studies* から本チームによる特集号の発刊が決定し、15本の論文による刊行を目指し、構想、ドラフトの討議による準備を進めている。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本ヘーゲル学会理事、日本病跡学会理事、*International Association for Reconciliation Studies*（国際和解学会）理事を務めた。日本ヘーゲル学会ではほかに事務局役員、フロンティア研究部会運営委員長を務めた。特にフロンティア研究部会運営委員においては若手研究者のための研究発表の機会であるフロンティア研究部会運営（2回）に努めた。NPO 法人グリーンケア・サポートプラザ理事を務めた。
一般社団法人日本学生射撃スポーツ連盟関西支部参事を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

全学委員会としてグローバル日本学教育運営拠点運営委員および教務委員を務めた。部局内委員会では、教務委員会で副委員長、紀要編集委員会で委員長を務めた。また全国人間科学系部局連携ネットワーク運営委員会では、ネットワーク Web サイト担当を務め、Web サイトの制作、ロゴマークの制作を行った。

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	福岡 まどか
-------	----------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

中之島芸術センターでの授業が増え、他学部・他研究科を含む学生の教育に従事した点

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

京都大学東南アジア地域研究研究所からの研究費 GCR を活用し、成果となる working paper を作成した点

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

科研費、研究費、IMPACT などを活用し、中之島芸術センターにて一般向けの上演会を実施した点

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

部局内広報委員長など

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	白川 千尋
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研・基盤 C『タイ北部山地先住民のエスニック・セキュリティとその最適化に関する人類学的研究』研究分担者。国立民族学博物館共同研究『呪術的偶然性と共同性の人類学的研究』研究員。国立民族学博物館文化資源共同研究員。

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

国際協力機構海外協力隊技術専門委員。特定非営利活動法人国際マラリア対策団副理事長。文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会文学専門委員会専門委員。広島大学大学院人間社会科学研究科教授候補者人事選考委員会学外委員。日本文化人類学会代議員。日本文化人類学会理事。

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

総合学術博物館兼任教員。社会学・人間学系幹事教授。海外研究活動検討委員会委員長。未来共創センター運営委員会委員。人事委員会委員。シリーズ人間科学編集委員会委員。

--

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	森田 敦郎
-------	----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

附属図書館と共同で質的研究のデータ管理についての教材作成を行なった。完成した教材は CLE で公開される予定。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

国立情報学研究所より「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」を受託した

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

大阪大学フォーサイト（株）で取締役として活動し、同社の人材育成プログラムで講師を務めた。阪大と神戸製鋼の合同シンポジウムで講師を務めた。小松製作所に業務へのエスノグラフィの活用についてアドバイスを継続中。NTT データのためにエスノグラフィのトレーニングコースを実施。富士通、トヨタコネクテッド、ロフトワーク、竹中工務店など多数の企業でアドバイス、取材対応、講演を行なった。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

倫理委員長として申請書類、チェックシートの検討、データ管理におけるクラウド活用の検討を行なった

所属学系：	社会学・人間学系	氏名：	鈴木 和歌奈
-------	----------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

特になし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研若手研究採択

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

アムステルダム大学と国際研究を行っている

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

動物実験委員会委員、防災対策委員会委員、部局安全衛生委員会委員

4-3. 教育学系

講座名等	教員氏名
臨床教育学	岡部 美香
	森 祐亮
	藤川 信夫
	西森 年寿
	後藤 崇志
	野坂 祐子
	直原 康光
	野村 晴夫
	佐々木 淳
	藤野 陽生
	管生 聖子
	山下 朋美
	藤野 遼平
教育環境学	木村 涼子
	荒牧 草平
	三上 純
	園山 大祐
	高橋 哲
	岡田 千あき
	北山 夕華
	高田 一宏
	知念 渉
教職	玉城 明子
	松枝 拓生

※計 24 名 掲載順

所属学系：	教育学系	氏名：	岡部 美香
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
<p>原典を講読する読書会を3つ開催（世阿弥、鈴木大拙、ハンナ・アーレント（ドイツ語））</p>

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
<p>Philosophy of Education Society of Australasia の機関誌 Educational Philosophy and Theory の編集委員長からの依頼で、アジア（日本、韓国、台湾）の教育哲学界・教育哲学会における女性リーダーの活動状況およびジェンダー研究状況を主題に Special Issue（機関誌の特集）を組むことになり、この国際的な共同研究のとりまとめをしている。Alternative Educational Anthropology 研究会を発足。</p>

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
<p>教育哲学会・機関誌編集委員長 教育哲学会・常任理事（2025年度の学会大会シンポジウムを企画中） 教育哲学会・倫理規程WG代表（パブリックコメントを踏まえて倫理規程を策定中） 教育思想史学会・理事およびインクルーシブ&ダイバーシティWG代表（男女差・年齢差・地域差について会員に対する調査を実施し、理事会・総会で現状と課題を報告） Asian Link of Philosophy of Education (ALPE) の運営（8月と2月に台湾と韓国で大会開催）。今年度は特に、韓国・台湾・日本国内の共同運営者と協力し、ALPEに参加する大学院生や若手研究者が Philosophy of Education Society of Australasia (PESA) の大会でシンポジウムを実施したり、その機関誌 Educational Philosophy and Theory でALPEの特集を組むなどと活動を通して、PESAでのアジアの存在感を強く主張することに努めた。 大阪府教育委員会委員 外国にルーツをもつ生徒が多い大阪府守口市立守口さつき学園の「総合的な学習の時間」に大阪大学の留学生を毎年2名、講師として派遣している。 大阪府教育庁と連携し、大阪府立天王寺高校と高津高校の生徒が参加する夏季集中セミナー「SDGsのその先をアカデミックに探究しよう！」を企画・開催。 公益財団法人松下幸之助記念志財団・研究助成選考委員 大阪市旭区あさひ育み学び舎事業スーパーバイザー</p>

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
<p>令和7年度入試問題（国語）問題作成委員・査読委員・採点委員の取りまとめ 大阪大学 SSI 運営委員・基幹プロジェクト代表・兼任教員 グローバル日本学教育研究拠点 兼任教員 人間科学研究科運営会議委員 人間科学研究科教育学系教務委員</p>

所属学系：	教育学系	氏名：	森 祐亮
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

著書『新カント派入門』の一項目「ナトルプ」の執筆（2025年度中に公刊予定）

教育思想史学会第34回大会でのフォーラム1「精神科学に精神を奪還する：G. ブックとリッター学派」の単独発表
（於：同志社大学、2024年9月）

教育思想史学会編『近代教育フォーラム』第34号への上記内容の論文の投稿（査読あり、審査に通れば2025年9月発行の同誌に掲載予定）

博士論文の提出（慶應義塾大学社会学研究科に2025年3月に提出予定）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

教育哲学会編集幹事

ガダマー協会会計監査

ガダマー協会個人研究発表における司会

ナトルプ没後100年シンポジウムにおける特定質問者

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	教育学系	氏名：	藤川 信夫
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

- 1) 九州大学、神戸大学、関西大学と共同セミナーを2度開催した。
- 2) 令和6年度学部学生の自主研究推奨事業の枠内で、他分野（教育文化学）所属の学部生の研究指導を行った。
- 3) 特任研究員・紙本明子とともに、講義科目「実践教育論Ⅱ」において演劇ワークショップのファシリテーターの養成を目的とするワークショップを行い、2月初旬に京都市内にて、他2大学が参加する共同ワークショップにおいて、その成果のプレゼンテーションを行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- 1) 科学研究費補助金による研究「道徳授業分析への適用を通じた「エスノメトリー法」の有用性と妥当性の検証」の成果の一部を教職用教科書『実践につながる道徳教育論』に掲載し出版した。
- 2) 一般社団法人 ACCD 大学コンソーシアムによる奨学寄付金により特任研究員・中田綾乃とともに共同研究を行った。
- 3) 一般社団法人 ACCD 大学コンソーシアムによる奨学寄付金により特任研究員・紙本明子とともに共同研究を行った。
- 4) 科学研究費補助金による研究「道徳授業分析への適用を通じた「エスノメトリー法」の有用性と妥当性の検証」につき、バイズ統計による分析結果を加えて最終報告書を作成した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- 1) 福岡県立八幡高等学校の生徒を対象に、「令和6年度 関東・関西研修（85 Shine）」の枠内で模擬授業を行った。
- 2) 教育哲学会において理事を務めた。
- 3) 教育思想史学会において理事を務めた。
- 4) 大阪市立松虫中学校において学校協議会委員を務めた。
- 5) 大阪市立丸山小学校において学校協議会委員を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

- 1) 人事計画委員会
- 2) 全学教育推進機構 基盤教養教育科目（人文）部会
- 3) 総合図書館運営委員会
- 4) 附属図書館電子図書館委員会

所属学系：	教育学系	氏名：	西森 年寿
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本教育工学会副会長

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

研究科長、未来共創センター長、サイバーメディア室長、人文社会科学オナー大学院プログラム教務委員長

--

所属学系：	教育学系	氏名：	後藤 崇志
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

教育工学演習 I にて、学生自身に探究活動に取り組んでもらった上で、小・中学生の自由研究における探究活動を支援するワークショップを行なった。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

研究代表者として科学研究費補助金（基盤 C）を、研究分担者として科学研究費補助金（基盤 C）1 件を受けた。
共著論文が日本感情心理学会優秀論文賞を受賞した。

指導学生の発表が、日本教育工学会 2025 年春季全国大会において学生セッション優秀発表賞を受賞した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

大阪府立豊中高等学校の学校運営協議会委員を務め、同校の探究授業の指導・助言を行なった。

航空保安大学の初任教官研修の講師を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

部局内の研究倫理審査委員を担当した。

所属学系：	教育学系	氏名：	野坂 祐子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

コリア国際学園との連携し、研究室の院生・学生が中高生を対象とする「心理学」の授業を担当し、アクティブラーニング（グループワーク）によるカリキュラム開発と評価を実施した。

また、児童自立支援施設との協働で、研究室の院生・学生が非行行動のある少年を対象とした「再非行防止」のグループワークのカリキュラム開発と評価を実施した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費基盤 C（研究代表者）を獲得したほか、2つの科研の分担研究を行った。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

警察庁「地方における途切れない支援の提供体制の強化に関する有識者検討会」及び「基本計画策定・推進専門委員」

こども家庭庁「児童買春・児童ポルノ被害児童の保護施策に関する検証・評価専門委員会委員」

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

部局ハラスメント相談員（室長）

公認心理師プログラム運営室（室長）

所属学系：	教育学系	氏名：	直原 康光
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

- ・2022年度に指導した学生の卒業研究が査読付学術論文として印刷された（心理学研究・原著）。
- ・学部の「司法・犯罪心理学」の授業内で現職の家庭裁判所調査官，法務技官（矯正心理専門職）をゲストスピーカーとして招へいた。また，大阪家庭裁判所の協力を得て，研究室の学生等を対象とした家庭裁判所調査官ワークショップを開催してもらった。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- ・日本発達心理学会の学会賞を受賞した（受賞論文「幼児期後期から児童期後期の外在化・内在化問題，向社会的行動の経時的な相互関係：8年間の縦断データを用いた交差遅延効果モデルによる発達カスケードの検討」）。
- ・科研費の代表1件（若手研究）および分担1件（基盤C）の研究を継続して行った。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・法務省委託の調査研究（離婚後の子の養育計画に関する調査研究業務）の協力研究者（養育計画書等の作成や評価のためのアンケート作成・分析等）
- ・家庭裁判所調査官の研修・研究会講師（7件）
- ・日本公認心理師学会常任編集委員，日本教育心理学会編集委員，日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第7回大会実行副委員長

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

特記事項なし。

所属学系：	教育学系	氏名：	野村 晴夫
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

臨床心理士・公認心理師養成プログラムの運営

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

2019年度に採択された科学研究費補助金基盤Cの研究継続

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本心理学会編集委員，日本教育心理学会編集委員・ハラスメント防止委員，日本発達心理学会ハラスメント防止委員

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

附属心理教育相談室室長，公認心理師養成プログラム運営室室員，施設マネジメント委員

所属学系：	教育学系	氏名：	佐々木 淳
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

大学院ゼミでは博士課程・修士課程で9名の指導を行った。博論中間発表会1名、博論副査2名を指導した。修士号2名、学士号4名の指導をした。院生と査読付き学術論文を5本投稿し、1本が採択された。臨床心理士コースはインターク・ケースカンファレンスなどで、公認心理師プログラムでは事前事後実習や巡回で指導を行った。2名が臨床心理士と公認心理師国家資格の両方を取得した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

精神病理についての単著1冊を4月に出版した。心理療法のトレーニングプログラムであるSP/SRプログラムについての基盤研究Cによって、日本心理学会や一般社団法人MCT-Jネットワークなどで研修会を行うかたわら、臨床家に対する8週間のプログラムを実施した。このプログラムの大学院生にとっての受容性について査読付き学術雑誌に投稿した。院生との共同研究について、査読付き学術論文を5本投稿し、1本が採択された。関係念慮に関する縦断研究を含む基盤研究Cを申請し、採択された。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本学術会議第一部連携会員・幹事、日本心理学会代議員・公認心理師養成大学教員連絡協議会学部カリキュラム・ワーキンググループメンバー、日本認知療法・認知行動療法学会常任編集委員・公認心理師あり方委員会委員、近畿認知療法・認知行動療法学会世話人、公認心理師の会理事・倫理／職責／関連法規部門長・広報委員・役員改選制度ワーキンググループ長、大阪府臨床心理士会産業部門運営委員などを務めた。理化学研究所臨床心理士・某企業嘱託心理カウンセラーで臨床活動を行い、研究者や職員のメンタルヘルスの向上に向けた講演会をおこなった。国際交流活動としては、かねてよりの共同研究先であるConcordia大学やSouthern Cross大学と継続して研究をしている。また、精神病理についての単著に関するブックイベントとして、認定心理士の会、日本公認心理師ネットワークにおいてオンラインセミナーを行った。後者のセミナーはオンラインゼミに発展し、精神病理についての学びの場所の提供を継続している。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

附属心理教育相談室副室長として臨床心理士養成コースおよび心理教育相談室の円滑な運営に加え、兼任となっている公認心理師プログラム運営室における本省への確認申請書類の作成やとりまとめ、複数の学外実習先の開拓、事前・事後実習としての指導、実習先への巡回指導を行った。学内委員、学業支援チームでの対象学生のモニタリング、動物実験委員会委員などを務めた。

所属学系：	教育学系	氏名：	藤野 陽生
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

BMC Psychiatry, Journal of Developmental and Physical Disabilities での editorial board member としての活動をおこなった。臨床動作学会、編集委員会委員、デュシェンヌ型筋ジストロフィー診療ガイドライン作成委員など学会関係の活動に従事した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	教育学系	氏名：	管生 聖子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

- ・万博記念公園での吹田市主催の吹田フェスタや地域医療機関でのイベントでのブース出展を行い、一般市民（主に乳幼児やその保護者）が参加する場に院生も関わる機会を提供した。
- ・公認心理師・臨床心理士の育成のため、座学だけでなく病院や相談室での心理カウンセリング場面で実践的教育を行った。
- ・大阪大学大学院人間科学研究科マインドフルネスプログラム特別公開講座実施。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- ・最優秀演題賞（第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会）
- ・科研費（基盤C）（代表）
- ・科研費（基盤C）（分担）
- ・文部科学省 Society5.0 実現化研究拠点事業（分担）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・厚生労働省、技術審査委員
- ・第26回母性看護学会招聘シンポジウム講師
- ・Saving Life before Birth Project Meeting the Experts Forum – a Taiwan & Japan Joint Fetal Medicine Conference 講師
- ・全国助産師教育協議会近畿地区研修会 講師
- ・株式会社メディカ出版 自治体保健師のための Web セミナー 講師
- ・京都グリーンケア協会専門職向けグリーンセミナー 講師
- ・認定 NPO 法人ピッコラーレ スタッフ研修会 講師

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

- ・ Society5.0 実現化研究拠点支援事業大阪大学ライフデザイン・イノベーション研究拠点ライフスタイルプロジェクト（生誕1000日見守り研究）
- ・心理教育相談室運営委員
- ・公認心理師運営委員
- ・教育実習等専門部会
- ・大阪大学医学部附属病院胎児診断治療センター委員
- ・ユネスコチェア運営室

所属学系：	教育学系	氏名：	山下 朋美
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援採択

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

大学における文化芸術推進事業「中之島に馳を放つⅢ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」 ゲストスピーカー

The Clearing（国際交流活動）ワークショップ開催

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

心理相談室における事務補佐員の電話対応についてマニュアルの強化

--

所属学系：	教育学系	氏名：	藤野 遼平
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	教育学系	氏名：	木村 涼子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

授業については、CLEの掲示板を授業時間内に活用、受講生からの毎回のコメントを教室にフィードバックしたりながら、双方向のやりとりが可能になるようにつとめた。大学院指導に関しては、主査として博士論文の執筆を指導し、二名、博士号を取得するに至った。他に博士後期課程の学生について学会誌への投稿論文・学会に発表の指導をおこない、主査として1人、副査として2人が博士論文中間発表会を実施することができた。博士前期課程の学生に関しては、主査として1名、副査として5名の修士論文の指導をおこなった。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

中等教育とジェンダー平等、教員構成とジェンダー、近代日本の家事労働と主婦イメージ、家庭教育支援政策などについて、学術論文および学術書の章担当の執筆をおこなうとともに、次年度に持ち越す課題として、共著・単著の出版を目指し、現在論文を執筆中である。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本教育学会については地区理事として、学会主催のシンポジウムを、2024年5月に『フェミニズム教育実践の可能性』、2025年2月に『ジェンダー平等と教員』の二つを、企画・運営・シンポジストとしての参加をおこなった。他の学会活動としては、日本女性学会の学会誌編集委員、日本教育社会学会では地域活動活性化WGの委員をつとめた。また、関西地域のダイバーシティセンターなどでの研修や講演活動をおこなった。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

今年度は全学においては人権問題委員会の委員、全学ハラスメント相談室副室長を、部局内においては、広報委員会委員、教育学系倫理審査委員会委員長、心理教育相談室運営委員会、ハラスメント防止委員会、人事委員会など各種委員会の委員をつとめた。

所属学系：	教育学系	氏名：	荒牧 草平
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科学研究費補助金研究代表者

科学研究費補助金研究分担者

昨年度出版した著書について合わせて7つの新聞および学会誌にて書評された

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本教育社会学会理事・企画部長

日本家族社会学会理事・研究委員

数理社会学会編集委員

日本社会学会『社会学評論』・専門委員

社会調査協会表彰選考委員

同志社大学若者と社会研究センター嘱託研究員

JGSS 研究センターの嘱託研究員

提携大学の1つであるドイツのビーレフェルト大学教授による講演会の主催

一般公開された研究セミナーにコメンテーターとして登壇

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

教育学系幹事教授

--

所属学系：	教育学系	氏名：	三上 純
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	教育学系	氏名：	園山 大祐
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

大学院では、フランスとスイスの教員にオンライン、対面で授業に参加いただき、直接学生に研究方法と成果について教授いただいた。国際学会発表や学会誌への投稿のテクニカルな点について直接指導いただく機会は他の講義ではないようだったので学生の要望に回答する形で導入した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研の基盤 A の研究成果を書籍にし、刊行後に中之島センターにて公開研究会で報告を実施した。またそのほか、教科書を 2 冊、学術書を 1 冊刊行した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

国際交流として、フランスとスイスから教授を 3 名招へいし、研究懇話会を開催した。一つは学会との共催とした。いずれも一般公開としている。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

教務委員長として 1 年間、全学及び研究科・学部内の管理運営にあたった。

所属学系：	教育学系	氏名：	高橋 哲
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

海外共同研究先の米国コロンビア大学にて、研究に関するインタビュー記事が掲載された。

<https://cee.tc.columbia.edu/blog/getting-to-know-visiting-scholar-satoshi-takahashi.php>

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

公益財団法人日米教育交流振興財団 評議員

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	教育学系	氏名：	岡田 千あき
-------	------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

大学院生が学会発表を行った

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

ジンバブエ National University of Science and TGechnology の研究者との共同研究を行った

カンボジア Royal University of Phnom Penh との共同研究に関する協議を開始した

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

国際協力機構／（株）JIN による南スーダン国平和構築事業に参画した

国際協力機構タンザニア国健康・スポーツ行政研修の受け入れを行った

国内外の複数の団体／学会の理事、委員会委員、審査委員、世話役などを務めた

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

健康スポーツ科学教育研究環 兼任教員

D&I センター委員

財務会計委員(人科)

人間科学系部局ネットワーク運営委員（人科）

所属学系：	教育学系	氏名：	北山 夕華
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

広島大学・北海道教育大学とのオンライン合同勉強会および、その成果発表を兼ねたセミナー「ポストコロニアルの視座から問う一子ども・学校・カリキュラム研究」を IKUNO・多文化ふらっとで開催した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

基盤研究（C）に採択された

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

吹田市教育委員会・社会教育委員、箕面市教育委員会・活動評価委員、国際人権教育学会理事、The JSPS Norway-Japan Academic Network 理事を務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	教育学系	氏名：	高田 一宏
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

特記事項なし。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費（基板研究 C）「部落差別言説の変容に関する研究 「新しいレイシズム」研究の知見を手がかりとして」（代表 阿久澤麻理子）の分担者を務めた。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本教育社会学会代議員、箕面市立萱野中央人権文化センター運営懇話会会長、兵庫教育文化研究所常任委員などを務めた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

全学教育課程委員会の教育実習等専門部会で部会長を務めた。部局では大学院入試運営委員などを務めた。

所属学系：	教育学系	氏名：	知念 渉
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費基盤 B の研究代表を務めるとともに、複数の科研費の研究分担者となっている。

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

社会教育活動：とよなか都市創造研究所の調査研究報告会、京都府立高等学校人権教育研究会で講師を務めた。

学会活動：日本教育社会学会編集委員会委員、日本社会学会研究活動委員会

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

大阪大学とマヒドン大学が共催したシンポジウム（Joint Symposium of Mahidol University and Osaka University）の登壇者となった。

--

所属学系：	教育学系	氏名：	玉城 明子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

- ・全学教職科目「特別活動・総合的な学習論」：高等学校の総合的な探究の時間発表会の発表内容について大学生と高校生による意見交換の実施
- ・全学教職科目「教育方法論（ICT 活用を含む）」：生成 AI を活用した学習指導案作成の実施
- ・全学教職科目「教職実践演習」：総合的な探究の時間、課題探究での高校生の研究の伴走支援、各種学校公開研究発表会への参加、研究授業見学、参加後省察を深める個別面談の実施
- ・全学教職科目「教育実習」：母校実習以外の実習先との連携、学校支援学生ボランティア支援
- ・高大連携（大阪府立大手前高等学校・大阪府立今宮高等学校）：大学生による高校生へのキャリア教育ワークショップ支援
- ・探究活動支援（大阪府立東高等学校・大阪府立旭高等学校・大阪府立豊中高等学校・大阪府立刀根山高等学校）：大学生による伴走支援、意味づけ、振り返りの場づくりの支援
- ・教員採用試験受験希望者への支援：自主勉強会サークルの立ち上げ・運営支援、面接・場面指導・模擬授業支援および外部専門家を招いての対策講座の運営実施
- ・教職課程履修学生への対応：個別支援の必要な学生への面談、関係各所（学内・学外）との連携強化

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- ・日本教育方法学会『教育方法学辞典』担当:分担執筆
範囲:「全員参加」第4章 学力の形成と授業の研究 第4節 授業と集団
- ・竹川慎哉, 豊田ひさき『子どもがつながる、学びが深まる「発問」「個別最適化時代」の教師の問い』担当:共著
範囲: I 発問の考え方 第2章 教材研究と発問

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・大阪府立旭高等学校普通科「探究全体発表会」指導助言・審査員
- ・大阪府立刀根山高等学校「総合的な探究の時間 地域課題グループワーク発表会」指導助言
- ・大阪府立東高等学校「総合的な探究の時間中間発表会」指導助言
- ・大阪府立旭高等学校国際文化科「探究発表会」指導助言・審査員
- ・大阪府立大手前高等学校「集中セミナー」課題探究ワークショップ・模擬授業
- ・大阪府立豊中高等学校「課題研究発表会」審査員

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

【全学】教育実習等専門部会 委員

所属学系：	教育学系	氏名：	松枝 拓生
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

特になし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

博士論文をベースにした研究書を2025年3月に出版予定。（松枝拓生『見ることを学ぶ——ジル・ドゥルーズの〈紋切り型との闘い〉』春風社、2025年3月出版予定。）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

特になし

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

特になし

4-4. 共生学系

講座名等	教員氏名
未来共生学	斉藤 弥生
	近藤 和敬
	中井 好男
	佐藤 桃子
	稲場 圭信
	渥美 公秀
	宮本 匠
	Sainbayar Gundsambuu
グローバル共生学	澤村 信英
	杉田 映理
	坂口 真康
	大谷 順子
	河森 正人
	藤目 ゆき
	MOHACSI Gergely
	太田 貴大
	佐伯 いく代
共生学系共通	ANDRIARINIAINA FANANTENANA RIANASOA
	小泉 空

※計 19 名 掲載順

所属学系：	共生学系	氏名：	齊藤 弥生
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
<ul style="list-style-type: none"> ●博論2本の提出：大学院生（M生2名、D生6名）の指導教員を担当し、博士論文2本（2名とも留学生）を提出することができた。 ●すべてのD生が奨学金を獲得：2名が日本学術振興会特別研究員（DC1）、2名が「次世代」プログラム、1名がロータリー財団奨学生、1名が国費留学生。新たに1名が日本学術振興会特別研究員（DC2）に採択された。 ●学会発表の指導：国際学会1本、日本地域福祉学会4本、関西社会福祉学会1本の大学院生による研究発表を指導した。 ●学術誌への論文投稿の指導： ●院生の海外派遣：D生1名がロスキレ大学（デンマーク）に客員研究員として滞在。 ●海外の大学との学術交流：D生1名がフィンランド・ヴァーサ大学研究員と兵庫県豊岡市但馬で過疎地の町おこしについて海外研究者との国際共同調査を実施。 <p><学部生></p> <ul style="list-style-type: none"> ●OUMP 加速事業（詳細は後述）で実施した障がい者団体によるパン販売を、DE&I デザイン教育として「共生の人間学・実験実習2」（3回生対象）とリンクさせて実施した。具体的にはパン販売の企画をしたり、作業所訪問により障がいのある人たちとともにパンやクッキーを焼いたり、販売時に活動紹介をするための動画撮影を行うなどの実習を行った。 ●NHK 番組「toi-toi」は、一人の人が抱いてきた「問い」を、多様な視点を持つ人たちとみんなで考える新しい福祉番組であるが、本学広報部の紹介で障がいのある出演者等のサポートをお手伝いする機会を持った。DE & I の理念を学ぶ授業と連動させた。 ●大学本部からのお声がけで、アサヒビール社とともに「2024年適正飲酒・スマドリセミナー」を開催し、お酒の席でのマナーやハラスメント予防を学ぶ機会をつくった。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
<ul style="list-style-type: none"> ●著作・論文：学術論文（単著）1件、分担執筆（共著）1件、ラジオ教材テキスト4件、その他1件。 ●国際学会（2回）：The 1st Annual Conference of the Taiwan Society for Care Research（台湾大学（台北）/2025年3月）、韓国地域社会福祉学会（翰林大学（春川）/2024年10月）※いずれも開催国側の招待による口頭発表。 ●国内学会（1回）：日本地域福祉学会（文京学院大学（東京）/2024年6月）※口頭発表。 ●外部研究資金4件（うち2件は研究代表者）：新規の研究としては「次世代社会価値創造拠点事業課題探索及びプロジェクト形成のための事業協力者による調査研究：半導体技術を活用した共感力向上プログラムの構築」（研究代表者、2024年9月～2024年11月、700万円）を工学研究科、情報科学研究科等の研究者を開始した。また令和7年度研究公開促進助成（学振）に採択され、『変容する民生委員：委嘱されたボランティアの行方』の2025年度中の刊行が決定した。 ●国際共同研究としての海外現地調査（3回）：福祉ボランティアの国際比較調査（科研費による）として、ドイツ調査（9月）、韓国調査（8月）、台湾調査（3月）を実施し、各国で制度改革とともに新たに誕生している福祉ボランティアを対象にインタビュー調査等を実施した（科研費による研究）。 ●国内現地調査：南医療生活協同組合（名古屋市）、広島医療生協（広島市）、協同福祉会（大和郡山市）等で高齢者介護の現状と課題に関する現地調査を実施。また吹田市の訪問介護事業所に勤務するホームヘルパー15名を対象にインタ

ビュー調査を実施した（科研費による研究）。

●コミュニケーションロボットによる実験：大阪府内の特別養護老人ホームの入居者を対象に、コミュニケーションロボットを用いた会話実験を実施し、データを収集した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

●メディア関係：ラジオ番組『NHK 社会福祉セミナー』（NHK 第2放送）で「高齢者福祉の課題」をテーマに4回分の放送回を担当。さらにラジオ番組「楽しく教えて！あなたの街の介護&ケア」（NHK ラジオ第1放送）の3回に出演し、各地で展開する介護予防の取り組みについて、専門的見地からコメントした。

●自治体の福祉関連委員会等：自治体等の福祉政策関連の委員会（吹田市社会福祉審議会、吹田市地域包括支援センター運営協議会、能勢町地域福祉計画策定委員会等）に出席し、専門的見地からの意見を述べた。毎日新聞福祉顕彰審査委員会、コープ共済ささえあい助成審査委員会等での委員として、業務に従事した。

●地域を対象にした講演活動：「えにしアカデミー」（滋賀県社会福祉協議会）、「マンション交流会」（吹田市社会福祉協議会）、日本医療生活協同組合連合会、広島県生活協同組合連合会、兵庫県生活協同組合連合会等、地域や福祉関連団体の方々を対象に高齢者福祉の動向について情報提供を行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

●人間科学研究科副研究科長としての業務：人間科学研究科副研究科長として、研究科執行部の業務（全体業務、入試関係、教育改革推進室業務等）に従事した。

●教育オフィス員としての業務：大阪大学総長補佐として、教育オフィスの業務に従事した。同オフィスに関連する学内委員会（「次世代研究者挑戦的研究プログラム事業運営委員会」「スチューデント・ライフサイクルサポートセンター会議委員」「同運営会議委員」「教育情報化WG委員」「GPA制度検討WG委員」）を務めた。

●共生学系人事選考委員会（3件）を担当：共生学系の国際協力学、環境共生学、地域共生学の3つ講座の教員人事に関わり、3人の教員を無事迎えることができた。

●9月に佐藤桃子講師（共生学系・共生の人間学講座）が着任、9月末～12月末まで産前産後休暇を取得したため、磯島助教の採用人事を行い、代任教員を務めていただいた。

●人文社会科学系オーナー大学院プログラムで「DE&I デザイン」ユニットの業務：同ユニットを新規で立ち上げ、ユニット長として授業カリキュラムの作成、履修生の採用を行った。

●大阪大学マスタープラン 2027 実現加速事業（2024-2026 年度）：同事業の初年度にあたり、事業担当者として多数の業務を行った。1)事務員等の採用（常勤1名、非常勤2名の雇用）、2)キャンパス内で障がい者団体によるパン販売（通称：DE&I カフェ）の全マネジメント（吹田キャンパス内2カ所、豊中キャンパス1カ所）、3)大阪大学、また人科内での障がいのある人の雇用可能性に関する情報収集、4)人科版レジリエンスサポートルームの開設準備、5)人文社会科学系オーナー大学院プログラムで「DE&I デザイン」ユニットの開設準備、6)「手話カフェ」（中井好男准教授主催）「マインドフルネス講演会」（管生准教授主催）、「普段着でできるヨガ教室」「映画観賞会（コロナ禍の障がい学生の生活を描写した学生+教員の共同作品）」（山本ビバリー教授、山中教授制作）等、DE & I 啓発や学習のための事業を行った。

所属学系：	共生学系	氏名：	近藤 和敬
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

NPO 法人いくの多文化フラットの協力のもと、NPO 職員と大学院生、学部生を交えたワールドカフェを合計 3 度実施した。また、同 NPO で働く職員と本研究室の大学院生のあいだでの哲学対話を行った。またフィールド哲学という新しい試みを、同 NPO の協力のもと、いくのフラットパークの教室において、勉強会をおこなった。また学部実験実習 II では、斉藤教授が代表者である DEI プロジェクトの一環として B 型作業所のキャンパス内でのパン販売の販促活動を取り入れた授業を行った。また、超域プロジェクトの審査や発表の評価などに参加し、コメントを行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

本年度は、リサーチマップに掲載しているとおり (https://researchmap.jp/kazunorikondo/books_etc)、日本語の著作として分担執筆で 3 冊、編著 1 冊、英語での分担執筆を 1 冊を出版した。学会発表は 3 回、研究発表は 2 回（内 1 回は英語での発表）を行った。とくに学会発表のうち 1 件は、日仏哲学会の 50 周年記念シンポジウムでの招待発表をおこなった。論文は 4 本で、内査読論文が 1、招待が 3 である。また本年度から、基盤 B「フランス・エピステモロジーの拡張：科学技術史の社会哲学として」（代表者：近藤）がはじまり、本年度 2 回の研究会をおこない、ウェブサイトの構築をおこなった。また、大阪大学グローバル日本学の拠点形成プロジェクトとして、「三木学の国際拠点形成—哲学的人間学の可能性、人類学と協同主義の交錯と広がり」を開始し、3月 21 日に第一回ワークショップを英語で開催した。また IMPACT のオープンプロジェクトとして、オープンライブラリープロジェクトを実施した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

JST の CREST の MULTI SENSING 領域の領域アドバイザーとして、領域会議などに参加している。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

教務委員を務めた。

所属学系：	共生学系	氏名：	中井 好男
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

①共生学の実験実習における対話実践活動

受講生が対話の場と創作活動を計画し、ファシリテートすることで、多様な人々との協働についての姿勢を身につけるとともに、フィールドに入る研究者や実践者が持つ権力性についての理解を目指した。

②大学院、学部の講義におけるマイノリティとの対話と受講生同士の語り合い

外国につながる方や障害者を招き、DE&Iについての理解を深め、課題について検討した。また受講生同士の語り合いの中で、傾聴の基礎を学んでもらった。

③日本手話体験講座

キャンパスライフ健康支援・相談センター、ダイバーシティ&インクルージョンセンター、学生・キャリア支援課の共催により、村田雄樹先生とともに学内の教職員を対象に日本手話に関する講座を実施した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研については、昨年度からの継続分（代表）と新たに今年度から開始した新規の研究課題がある。学会発表、論文、書評などの研究活動をゼミ生と共に行なった。特に、教育社会学を専門とする院生と障害当事者である学部生、外国につながる研究者とともに行なったオルタナティブスクールでのフィールド調査は研究成果の発表に向けて現在も活動を続けている。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

1) IMPACT オープンプロジェクト「対話で進めるディスアビリティ・インクルージョン」①手話カフェ、②ブックカフェ（豊中キャンパス、みつか坊主にて、学生や一般参加者の方との本を通じた交流）、③ネイチャア・フィーリング（NPO 法人ヘレンケラー自立支援センターすまいるさんからろう者・盲ろう者の方にご参加いただき、自然観察を通じた交流や障害理解を目指した）、④「ろう者監督と考える映像表現」を行い、手話カフェ、『わたしたちに祝福を』鑑賞、今村監督・横尾監督・谷監督による怠惰の場を設けた。

2) 学会活動

①言語文化教育研究会年次大会委員

②日本語教育学会チャレンジ支援委員、審査・運営協力委員

③社会言語科学会学会誌編集委員

④共生学会多様性拡充 WG

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

障がい学生等修学支援委員会委員長

所属学系：	共生学系	氏名：	佐藤 桃子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

雲南市男女共同参画推進委員（令和6年度末まで継続）

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	共生学系	氏名：	稲場 圭信
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

令和6年能登半島地震における宗教施設、宗教者の対応について、公益財団法人日本宗教連盟、文化庁宗務課、宗教者災害支援連絡会等と協力してセミナーや実践活動を行った。

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	共生学系	氏名：	渥美 公秀
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

今年度も岩手県野田村をフィールドに行う実習授業を実施した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

能登半島地震への実践的な対応を通して得た知見を学術論文にまとめた。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

中越地震 20 年、阪神・淡路大震災 30 年を機に、数多くのメディア取材を受け、研究成果をもとに広く社会に発信することができた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	共生学系	氏名：	宮本 匠
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

軈の津ミュージアムキュレーターの津口在五氏をゲストとして招き、生に根差した表現活動の実践事例を学んだ。
また、授業内で、既存の授業評価アンケートとは別に、学生目線で授業評価アンケートの設問自体を作成してみる「みんなで作る授業評価アンケート」の作成、実施を行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

単著を出版することができた。また、東北大学・災害科学国際研究所の2024年度災害レジリエンス共創研究プロジェクトの助成を得た。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本グループ・ダイナミクス学会の全国区理事として学会業務を担った。
日本質的心理学会編集委員として論文審査の業務を行った。
日本災害復興学会理事・広報委員長として学会業務を行った。
能登半島地震にかかる特に災害ボランティアについてメディアを通じて情報発信を行った。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

紀要誌編集委員として紀要の編集業務にたずさわった。
安全衛生委員として安全衛生の業務にたずさわるとともに、防災士の取得を行った。

所属学系：	共生学系	氏名：	Sainbayar Gundsambuu
-------	------	-----	----------------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

The courses I taught independently for this academic year are Academic Writing and Introduction to International Education for undergraduate international students of OUIUDP; the co-taught courses for graduate students are Critical Studies in Education for Transformation II, Critical Studies in Education for Transformation: Masters Research Seminar I, II, and Critical Studies in Education for Transformation: Doctoral Research Seminar I, II.

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

I published the following papers in international journals.

1. Gundsambuu, S. (2025). The influences of external and sideways factors on the introduction of English as a medium of instruction programs in East Asian countries. *Journal of Comparative & International Higher Education*, 16(6). <https://doi.org/10.32674/xvqxen64> (peer-reviewed)
2. Egshig, Sh., Gundsambuu, S., Bat-Uchral, G., Davaasuren, B., Demberelmaa, B., Erdenenaran, G., Munkh-Uchral, E., Nerguijargal, B., Purevsuren, B., Selengemurun, Ch. & Soyol, L. (2024). Exploring translation competence: An experimental study with translators and foreign language teachers in Mongolia. *Current Trends in Translation Teaching and Learning E*, 11. <https://doi.org/10.51287/cttl20243> (WoS indexed)
3. Gundsambuu, S. (2024). Internationalization of higher education through English medium instruction in East Asian countries: Rationales and issues. *Perspectives*, 23, 3-6. (peer-reviewed)
4. Gundsambuu, S. (2024). Factors influencing the implementation of English medium instruction programs in East Asian higher education: A comparative case study. *World Voices Nexus Chronicle*, 8(2). <https://www.worldcces.org/article-3-by-gundsambuu> (peer-reviewed)

I was awarded with the JSPS research grant.

1. Grants-in-Aid for Scientific Research, Grant-in-Aid for Early-Career Scientists, Japan Society for the Promotion of Science (Research Grant No. JP24K16709), Apr 2024 - Mar 2027 (Lead Investigator), Investigating the Outcome of EMI Programs in Higher Education Context: Cases from Japan and Mongolia

I also participated in the following conferences.

1. Gundsambuu, S. (2025.1.25). Investigating the outcome of English medium instruction programs in higher education institutions in non-anglophone countries: Graduates' post-graduate experiences, Looking Forward – The Future of ICLHE in East Asia, 2025 ICLHE East Asia Symposium, Ryukoku University, Kyoto, Japan.
2. Gundsambuu, S. (2024.6). Internationalization of higher education through English medium instruction in East Asian countries: Rationales and issues, Equitable Higher Education in Times of Disruption, 2024 WES-CIHE Summer Institute (World Education Services and the Boston College Center for International Higher Education), Boston College, June 4-5, Massachusetts, USA. (Invited)
3. Gundsambuu, S. (2024.3). Utilizing Retranslation theory and hypothesis in research. Language, Culture and Education Studies-2024 Conference, International University of Ulaanbaatar, Mongolia. (Invited)

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

I did a peer reviewer for the Comparative & International Education Society (CIES) 2025: Envisioning Education in a Digital Society to be held in March 20-26 in Chicago, the USA.

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

I participated in the organization of the Entrance Examination of the Graduate School of Human Sciences in February 2025.

I also did a peer reviewer for the Kyosei Journal.

所属学系：	共生学系	氏名：	澤村 信英
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
能登地方での学部生を対象としたフィールド調査実習（7月5～7日、杉田教授、坂口准教授との合同）

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
特になし

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
特になし

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
全学教育推進機構会議委員、未来共生プログラム・コーディネーター、未来共創センター副センター長ほか

所属学系：	共生学系	氏名：	杉田 映理
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

国際協力学研究室の学部生教育については、ローカルな課題とグローバルな問題を結び付けて研究と実践をする力をつけさせるため、能登半島（七尾市）での調査合宿を行い調査の力とレポート執筆の力をつけさせた。卒論は指導生8人中6人が海外を対象としたが、うち5人が学部生ながら海外で一人で遂行したフィールドワークをベースにしている。一方、大学院生も同分野の澤村先生とともに、バングラデシュ、コートジボワール、ジンバブエ、インド、ケニア、中国、ベトナムを対象とした研究の指導をしており、人間科学部・研究科の教育の「国際化」に貢献してきた。

さらに、文部科学省の取組みであるユネスコ研修に、博士課程の学生1名が採用され、インドの地域事務所でも半年間、実務と研究に関わる機会を得た。

また、HSPおよび未来共創センターのオープンプロジェクト（IMPACT）の資金を得ているMeWプロジェクト（月経をめぐるウェルビーイングの研究と実践）には、研究科を超えた学生が主体的参加に参加し、研究を共に行い、アウトリーチ活動への企画・運営に関わってもらっている。

人間科学部1年生向け必修授業の世話役（主担当）も担った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

国際的な共同研究として、アメリカのコロンビア大学の教授で月経研究では世界をリードするソマー氏をPIとする「月経フレンドリーな公共/公衆トイレ」の世界6都市比較研究を継続している。今年度は、国際共著論文を2本発行した。また、研究成果を日本のオーディエンスにむけて発信すべく日本語で研究会発表を1回行った。

現行の日本の月経教育を問う科研プロジェクトではMeWプロジェクトの成果とも呼応させながら、学会や研究会で4回発表、論文1本を発行。新たに視覚障害者の月経の課題について、科研メンバーとインタビュー調査をするなど多様な主体について検討を継続している。

一方、国際協力学分野の書籍を2冊、編著者として出版した。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

社会貢献活動としては、月経をめぐるウェルビーイングに関連して①NPOと連携しての学校トイレにおける生理用品・生理用品無償提供用のディスペンサー（MeWディスペンサー）の提供、②能登半島地震の被災地に設置したMeWディスペンサーのフォローアップ活動、③企業との産学連携を通じたMeWディスペンサーの普及（3件）、③一般の小中学生向けの「生理の実験教室」の開催（NPOとの連携）、④大阪府内の公立高校および公立中学での月経教育の実施、⑤まだ準備段階ではあるが、大阪関西万博でのMeWディスペンサーの設置とシンポジウム開催に向けた活動、を行った。

学会活動では、国際開発学会において、常任理事、社会共創委員会委員長、選挙管理委員を務めている。8月までは、編集委員も担っていた。共生学会で、選挙管理委員を担当。国際誌 Sanitation では編集委員を担っている。

また、国際協力の実践に対する後方支援として、国際協力機構（JICA）の衛生分野のアドバイザー、ジャパンプラットフォーム（JPF）の事業検討専門家グループ、国際学校保健コンソーシアムの事務局を務めている。さらに日本トイレ研究所の委員を継続中。

JICAでは、アドバイザー業務のほか、海外からの研修員向けの講義も3件担当した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

2024年度は、共生学系幹事教授であったが、数年まえより学系将来構想ワーキンググループ長であったこともあり、2025年度からの系内改組の準備には時間を割いた。

一方、大阪大学 UNESCO チェアの運営室メンバーとして定期ミーティングを持ちながら活動をサポートしている。

所属学系：	共生学系	氏名：	坂口 真康
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

・授業「国際協力学Ⅱ」／"International Development and Collaboration Ⅱ"における受講生によるグループワークと英語のプレゼンテーションの実施。プレゼンテーションの際には指定討論グループによる質疑応答（英語）の時間を設けて、受講生間のインタラクションの活性化を促進。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

【論文】

・衛藤裕・坂口真康（2024）「共生社会で求められる「生きる力」を育む学校についての一考察——「心のバリアフリー」教育に注力する千葉県各市町村立中学校に着目して」『兵庫教育大学学校教育学研究』第37巻、pp.305-316。

・坂口真康・南美佐江（2024）「学校における「グローバル教育」と国際交流プログラムに関する教員の認識の一考察——2023年度実施の教員研修プログラムを事例として」『兵庫教育大学学校教育学研究』第37巻、pp.95-105。

・坂口真康（2024）「現代から過去の「奈良の学習法」を振り返る——日記の探索を通じて」『学習研究』第510号、pp.16-21。

【書籍】

・坂口真康（2025）「南アフリカ共和国を事例に教育の普遍化と格差を考える——現実の社会を生きる人の「声」をもとにして」小川未空・杉田映理・澤村信英編『「途上国」から問う教育のかたち——国際協力を歩く、フィールドの声を聴く』左右社、pp.56-74。

・Sakaguchi, Masayasu (2024) "Overview of a Platform for International Collaborative Research: Schemes of Japan (MEXT and JSPS) and South Africa (DHET and NRF)", Takayoshi Maki, Takalani M Mashau, Charl C Wolhuter eds., Partnership Between Universities in Japan and South Africa, UJ Press, pp.177-203.

・Gondwe, Foster & Masayasu Sakaguchi (2024) "Professionalism and Academic Freedom in Higher Education: Evidence from Malawi and Japan", Yamikani Ndasauka, Garton Kamchedzera eds., Academic Freedom in Africa: The Struggle Rages on, Routledge, pp.73-188.

・Maki, Takayoshi, Masayasu Sakaguchi, Nozomi Sakata & Asami Shimoda (2024) "Preparation for Future Teachers Teaching with Technology: The Case of Japan", Agnes Chigona, Helen Crompton, Nyarai Tunjera eds., Global Perspectives on Teaching with Technology, Routledge, pp.43-59.

【学会発表等】

・Sakaguchi, Masayasu (2025) "Technology-enhanced Learner-centred Methodology in Japan" South Africa – Japan Joint Science and Technology Research Collaboration in conjunction with Faculty of Education Cape Peninsula University of Technology (2025年3月13日)。

・坂口真康（2024）「「発展途上」とされる社会の事例をもとに学校教育を考える——「共生」の観点から」第三世界の教育研究会12月例会（2024年12月21日）。

・坂口真康（2024）「共生社会をめぐる問題系の確認と展開(1)：社会的凝集性の再検討(4)——「共生」の英語訳」日本社会学会第97回大会（2024年11月10日）

・坂口真康（2024）「学校教育を通じた「社会学共創」について考える——南アフリカ共和国の取り組みを事例に」大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター主催2024年度テーマ研究会「「社会学共創」への共創的アプローチ」第1回研究会（2024年10月28日）。

<ul style="list-style-type: none"> ・ Chigona, Agnes, Nyarai Tunjera, Joyce Kanyerere, Masayasu Sakaguchi, Nozomi Sakata, Asami Shimoda, Mayaka Hida & Takayoshi Maki (2024) "Teacher Education in the 21st Century: Challenges and Opportunities in South Africa" アフリカ教育学会第 34 回大会 (2024 年 10 月 14 日)。 ・ 坂口真康・坂口 (山田) 有芸・山田文乃 (2024) 「学校教育の「共生」に関わる学習を考える——「日本の家庭科教科書における 外国につながる人々やその暮らしの描写のされ方に関する考察」をもとにして」シティズンシップ教育研究大会 2024 (2024 年 10 月 5 日)。 ・ Sakaguchi, Masayasu (2024) "Exploring Ways to 'Live Together' with Others after Experiencing the Covid-19 Pandemic: A Case Study of School Education in the Republic of South Africa" 日本教育学会第 83 回大会 (2024 年 8 月 29 日)。 ・ 坂口真康 (2024) 「グローバル化時代の「共生社会」と教育について考える——南アフリカ共和国からの学び」大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター人間科学セミナー (2024 年 7 月 25 日)。 ・ Sakaguchi, Masayasu (2024) "Processes for Recovering from Learning Losses Occurred since the Covid-19 Pandemic: A Case Study of the Republic of South Africa" 日本比較教育学会第 60 回大会 (2024 年 6 月 30 日)。 ・ 橋本憲幸・荻巣崇世・川口純・米田勇太・関口洋平・坂口真康 (2024) 「国際教育開発との向き合い方——研究と実務を行き来する個人の経験の比較」日本比較教育学会第 60 回大会 (2024 年 6 月 28 日)。 <p>【外部研究資金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究 (「共生社会の理想と現実の相違を前提とした教育の研究——南アフリカ共和国を事例として」) ・ 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A) (「アジア・アフリカ諸国の初等中等教育における学習成果改善機構の可変性と復元性」)

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本比較教育学会広報委員会委員 ・ 日本教育社会学会第 77 回大会実行委員会委員 ・ 日本教育社会学会国際委員会委員 ・ 共生学会理事 ・ 共生学会編集委員会委員 ・ 共生学会第 3 回大会実行委員会委員 ・ 2024 年度島根大学教育学部現職教員研修兼しまだい学校教員研修 (2024 年 10 月) 講師 ・ デリ工科大学 (インド) / 日本語センター "Japanese Culture" (2025 年 2 月) 講師

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間科学研究科教務委員会委員 ・ 人間科学研究科教育国際化推進委員会委員 ・ 人間科学研究科学生支援室室員 ・ 『共生学ジャーナル』(人間科学研究科共生学系) 査読

所属学系：	共生学系	氏名：	大谷 順子
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

博士後期課程の院生たちに国際学会での発表や、国際共著論文の分担執筆の機会を指導した。ニュージーランドで開催されたオーストラリア教育哲学学会（震災がテーマ）において企画セッションを開催し大学院生たちにも発表の機会をつくった。また、下記のオーストラリアや香港との国際共同研究において、大学院生らに RA として研究参画の機会を提供し指導している。さらに、未来共創センター・IMPACT オープンプロジェクト（スタートアップ型）に採択されその一貫として行ったものもある。

全学共通科目で、「適塾と緒方洪庵入門」年2回開講においても分担担当した。博士論文を主査として1本の他、ニュージーランドの Auckland 大学教育学部の博士論文の副査を行った。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

メルボルン大学を PI とする WHO のプロジェクト Evidence Mapping of Psychosocial Supports (EviMaPS) study を継続している。また、国際交流基金インド太平洋パートナーシップフェロー (JFIPP)に採択され、9月よりメルボルン大学 School of Population and Global Health で既存の精神保健と災害に関する共同研究また新たにオーストラリアにおける共生教育と equity のテーマで研究を行っている。香港中文大学の教授を PI とする香港科研費 2 件の国際共同研究に参画している。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

公益財団法人日本 WHO 協会理事。

メルボルンにおいて、大阪大学からの大学間交流協定（メイン CP を務めている）による交換留学生らと現地の多文化共生教育のイベント（メルボルン市や学校による）にボランティア参加などの機会を提供している。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

全学委員会：国際交流委員会委員。不随し*中国政府「国家建設水平大学公派研究生項目」及びインドネシア教育基金奨学金運営 WG*学生交流支援検討 WG*海外派遣候補者選考 WG*日本語・日本文化研修留学生プログラム実施 WG。関連するさまざまな選考面接用務。

適塾記念センター兼任。総合学術博物館兼任。

国際教育交流センター教授会委員。次期センター長選考委員会。

部局内：国際交流室長。共生学系幹事教授。大学院入学資格認定委員会、第3年次編入学試験運営委員会、入学試験委員会、入試合格者判定会議、人事委員会、図書室委員

所属学系：	共生学系	氏名：	河森 正人
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

学部ゼミ生を対象に以下のとおりフィールドワークを実施した。2024年11月に、福井県武生市の紙漉き職人や刃物職人を対象に伝統工芸の保存に関するインタビューを実施した。2025年2月に、昨年実施のばら寿司に関する調査に協力いただいた岡山市福富西の高齢者クラブの30名を対象に報告会を実施した。広島県福山市霞町地区および尾道市本通地区において、郷土料理の材料や調理法について聞き取りを行った。さらに、11月に青森県東津軽郡外ヶ浜町、五所川原市金木町において鉄道整備と地域振興の関係についての現地調査を実施した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

高知県のえっころネット（幡多地域で活動する医療関係の多職種団体）とともにこれまで四万十市において実施してきたフィールドワークの成果を整理することができた。マヒドン大学アセアン保健開発研究所他と共同で実施してきた「小規模多機能拠点を中核としたケアのコミュニティづくり」および「多世代共生型コミュニティ創生のためのインターローカル・パートナーシップ」の成果を整理し、これをタイに波及させる上での課題を明確にすることができた。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

横浜市西区の野毛坂グローバル（地域コミュニティづくり、海外と日本の学びあい事業、国際協力・交流事業などを実施）が実施する JICA 草の根技術協力「タイ国の自治体ネットワークによるコミュニティベース統合型高齢者ケアの普及モデル構築と人材循環プロジェクト」のアドバイザーコミッティメンバーとして協力することができた。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

財務会計委員会、評価委員会、人事委員会、紀要編集委員会、男女協働推進ワーキンググループの委員として活動した。

所属学系：	共生学系	氏名：	藤目 ゆき
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	共生学系	氏名：	MOHACSI Gergely
-------	------	-----	-----------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

- Academic Writing 集中講義世話役担当
- G30 科目担当（Introduction to Cultural Anthropology）
- 実習場として共生学コミュニティガーデンの管理・活用
- 全学共通科目「海外フィールドスタディ B」担当

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- 科学研究費補助金 基盤研究（B）「皆保険化（UHC）がリプロダクションにもたらす影響の人類学的な批判的検証」（研究分担者）
- 科学研究費補助金 挑戦的研究（開拓）「クリティカル・メイキング：デザインと共同する「作るための」人文社会科学の試み」（研究分担者）
- 未来共創センターオープン・プロジェクト「地域の食とプラネタリーヘルス」共同研究員

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- 奈良県宇陀市公民連携まちづくりプラットフォーム会員
- 特定非営利活動法人花と緑のネットワークとの連携構築
- TransAsiaSTS Network, founding committee member

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

- ユネスコチェア運営委員（引き続き）
- 未来共生プログラムの統括会議委員・教務担当（引き続き）
- 教育課程委員会委員（引き続き）

所属学系：	共生学系	氏名：	太田 貴大
-------	------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

インドネシアパランカラヤ大学におけるフィールドワーク型教育

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費基盤 C（分担）の獲得

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

インドネシアパランカラヤ大学との学生交流

インドネシアパランカラヤ大学の学生養蜂グループとのハチミツ共同販売

環境共生学会理事

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	共生学系	氏名：	佐伯 いく代
-------	------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

大阪大学 SDGs プログラム（OU-SDGs プログラム）において「共生学の話題：生物多様性と自然共生」を新規開講した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

昨年度末に発表した屋久杉の樹上生態系の研究論文について、和文解説記事を発表した。またメディアから取材を受け、新聞やインターネットに記事として配信された。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

「吹田キャンパスの秋を感じよう ～盲ろう者の方々とのネイチャア・フィーリング交流会～」を実施した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

大学院入試委員会委員を務めた。

所属学系：	共生学系	氏名：	ANDRIARINIAINA FANANTENANA RIANASOA
-------	------	-----	--

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

For this year, I was responsible for the undergraduate course "Laboratory in Kyosei Studies I" (Jikken Jisshuu 1) in which students engage with local issues at Hattori Ryokuchi Botanical Garden. Through collaboration with the park administration, students worked on addressing specific challenges within the park, designing and implementing projects that involve local people in developing sustainable solutions. This year, the activities focused on how to address the issue of uncontrolled bamboo growth by sensitizing people to transition to sustainable material through workshop and hands on activities using bamboo.

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

This year, I have given seven academic oral presentations, five of which I led as the primary author. I have also published one book chapter in Japanese, two non-peer-reviewed articles English and Japanese, and an essay in English.

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

This year, I worked as the Editorial Secretary of the Africa Educational Research Journal and was also involved in the Election Administration Committee of the Japan Society for International Development.

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

I served as a member and secretary of the Research Ethics Committee of Kyosei Studies.

所属学系：	共生学系	氏名：	小泉 空
-------	------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

実験実習Ⅰの一環で、学生と一緒に、グローバルヴィレッジ津雲台で行われた、GV フェスでボランティア活動を行いました

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

『日仏社会学年報』（35）に、「ジャン・ボードリヤール『誘惑の戦略』におけるアイロニーの概念について」という査読論文が掲載されました

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

『現代思想』7月号に、「壊れた世界とサイバネティックス——頭馬車、ウィーナー、加速主義」という原稿を寄稿させていただき、アカデミズム外の読者層にも、自分の研究を伝える機会を頂きました

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

今年度は共生学系倫理審査委員会にて、倫理審査に携わりました

4-5. 学系外

講座名等	教員氏名
附属未来共創センター	杉本 めぐみ
未来共生イノベーター 博士課程プログラム	伊藤 莉央
IMPACT	徳永 恵美香
	今井 貴代子
国際交流室	安元 佐織
学部英語コース 人間科学コース	POZSGAI ALVAREZ JOSEPH
	BABOVIC ALEKSANDRA
	MAWER KIM GISELA
	HUGHES PHILLIP BRIAN
学生支援室	松井 智子
サイバーメディア室	宮本 友介
評価資料室	米田 翼
公認心理師プログラム運営室	平井 啓
	高田 紗英子
	松本 恵

※計 15 名 掲載順

所属学系：	附属未来共創センター	氏名：	杉本 めぐみ
-------	------------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

福島浜通りスクールの海外研修部門に参加し IEEE の依頼で講義を行った。その結果、放射線科学基盤機構の兼担依頼を引き受け次年度は海外のスクールの運営や国際シンポジウムも主催予定。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

第 2 回ユネスコ IOC グローバル津波シンポジウム最優秀ポスター賞受賞(11 月)

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・ガジャマダ大学とグローニンゲン大学と阪大の 3 大学の国際交流活動の基盤作りを行い次年度にインドネシアで開始予定。
- ・最優秀ポスター賞受賞がきっかけになり、インドネシアのアチェでユネスコとインドネシア気象庁とシャクアラ大学や津波博物館とバンダアチェ市長等のステークホルダーと津波災害記念碑のリバイタリゼーションプロジェクトを開始した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

Osaka University International Certificate Program (OUICP)の次年度の ASEAN コースの講師を担当

所属学系：	未来共生イノベーター 博士課程プログラム	氏名：	伊藤 莉央
-------	-------------------------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
業績なし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
業績なし

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
共生学会における編集委員を担っていた

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
業績なし

所属学系：	IMPACT	氏名：	徳永 恵美香
-------	--------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

なし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

なし

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

なし

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

なし

所属学系：	IMPACT	氏名：	今井 貴代子
-------	--------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- ・公益財団法人松下幸之助記念志財団 研究助成（研究代表者）移民第世代の学校経験と仕事への移行－立ちはだかる在留資格の壁をめぐって
- ・基盤研究 C（研究分担者）文化的多様性に応じる教授法の日・英・諾比較研究

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・日本学習社会学会事務局幹事
- ・大阪市生野区区政会議委員
- ・市民活動シンポジウム等でコーディネーター及びコメンテーターを行った（NPO 法人神戸定住外国人支援センター主催（2025 年 1 月 18 日）、わかばプロボノプロジェクト実行委員会（大阪府立わかば高等学校・NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと・シミポタ運営事務局）主催（2025 年 2 月 8 日）、豊中市立市民公益活動支援センター主催（2025 年 2 月 22 日）、コミュニティサポート研究所・生野区 NPO 連絡会主催（2025 年 3 月 8 日））
- ・京都市の人権交流京都市研究集会 第 3 分科会（多文化共生と教育）にて講演（2025 年 3 月 1 日）
- ・大阪市教育委員会主催「外国につながる若者等の日本語交流・識字教室」ボランティア入門養成講座にて講演（2025 年 3 月 4 日）

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	国際交流室	氏名：	安元 佐織
-------	-------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

高齢者住宅で世代間交流・国際交流を促進するための企画を毎月1回実施した（吹田市の高齢者住宅2か所）
 地域住民との世代間交流・国際交流を促進するための企画を実施した（11月@静岡県浜松市・1月@兵庫県伊丹市）
 市民公開講座における講師担当（1月@兵庫県伊丹市・2月@静岡県浜松市）

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

留学生専門委員
 OUSSEP・iExPO 運営 WG
 国際交流委員

--

所属学系：	学部英語コース 人間科学コース	氏名：	POZSGAI ALVAREZ JOSEPH
-------	--------------------	-----	------------------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
- Dissertation Supervision for a Master's student at Latin American Faculty of Social Sciences (FLACSO) - Mexico.

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
- Pozsgai-Alvarez, Joseph. 2024. "Three-Dimensional Corruption Metrics: A Proposal for Integrating Frequency, Cost, and Significance," Social Indicators Research. DOI: 10.1007/s11205-024-03473-x.
- Pozsgai-Alvarez, Joseph and Huss, Oksana. 2024. "The meeting of two worlds: strategic corruption as an emerging concept in (anti-)corruption studies and international relations," Contemporary Politics. DOI: 10.1080/13569775.2024.2370695.
- Murakami, Yusuke and Pozsgai-Alvarez, Joseph. 2024. "Un análisis de la democracia peruana durante la crisis política (Peruvian democracy through the crisis: an analysis)," Elecciones. DOI: 10.53557/Elecciones.2024.v23n27.04.
- Pozsgai-Alvarez, J., Villena-Tagle, C., & Aguedo Huiza, B. 2024. "Prosecutorial Populism or Balancing Act? The Politics of the Lava Jato Investigations Against Former Peruvian Presidents." In Corruption and Anti-Corruption Upside Down: New Perspectives from the Global South (pp. 233-259). Cham: Springer International Publishing.
- Pozsgai-Alvarez, Joseph. 2024. "Grand corruption." In Elgar Encyclopedia of Corruption and Society, pp. 134-137. Edward Elgar Publishing.
- Pozsgai-Alvarez, Joseph. 2024. "Fujimori, Alberto and corruption in Peru." In Elgar Encyclopedia of Corruption and Society, pp. 120-121. Edward Elgar Publishing.

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

所属学系：	学部英語コース 人間科学コース	氏名：	BABOVIC ALEKSANDRA
-------	--------------------	-----	--------------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
Thesis supervision, academic workshops

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
Vice-director to HUS IUDP

所属学系：	学部英語コース 人間科学コース	氏名：	MAWER KIM GISELA
-------	--------------------	-----	------------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

--

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	学部英語コース 人間科学コース	氏名：	HUGHES PHILLIP BRIAN
-------	--------------------	-----	----------------------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
Dissertation supervision of undergraduates Special lecture on queer migration, sexual health and activism

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
-

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
Joined Kobe Migration Research Center and planning symposium in June 2025

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
International Undergraduate Degree Programme screening and admissions MEXT Interviews International Undergraduate Degree Programme Student Council Advisor International Undergraduate Degree Programme 1st Student Cohort Advisor

所属学系：	学生支援室	氏名：	松井 智子
-------	-------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

- ・第 29 回日本緩和医療学会学術大会・第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会 優秀演題賞受賞
- ・2024 年度若手研究者海外派遣支援プログラム（大阪大学）採択
- ・大阪ガスグループ福祉財団「令和 6 年度調査・研究助成」採択

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

- ・日本心理学会（講演出版小委員会）公開シンポジウム「人生 100 年時代における心理学の貢献—縦断研究から紐解くこころの加齢発達—」 運営
- ・日本健康心理学会（広報委員会）

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

- ・合理的配慮検討委員
- ・ハラスメント相談員

所属学系：	サイバーメディア室	氏名：	宮本 友介
-------	-----------	-----	-------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

情報セキュリティの啓発

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

「サービスハブ構築・運営事業」表現プログラム「アジール呱呱の声」担当

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

人間科学研究科 部局ネットワーク管理者

CO デザインセンター 部局ネットワーク管理者

人間科学研究科 部局 CSIRT

人間科学研究科 部局情報システムセキュリティ管理者

所属学系：	評価資料室	氏名：	米田 翼
-------	-------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

特になし

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

科研費に新規で2件採択された（代表1件（若手研究）、分担1件（基盤B））。代表の科研では、John Rylands Research Institute Library（マンチェスター大学）での文献調査のパーミッションを取得し、実際に調査を実施したほか、次年度以降にイギリスの研究者を国内に招聘するための打ち合わせを実施した。

また、書籍（分担執筆）2冊、論文（単著）1本を刊行したほか、国内外のシンポジウムでの発表3件（国外1件、国内2件（うち1件主催））、トークイベントの登壇1件、学内のセミナーでの発表1件を実施した。本年度に刊行した書籍と論文を契機に、新たに単著での出版依頼につながった。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

2025年春季（3月30日）のベルクソン哲学研究会のオーガナイザーとして、研究会の企画・運営を実施した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

評価資料室：部局アクションプランの作成に貢献、授業改善アンケート（年2回）の実施・集計、部局自己評価報告書の作成

教育改革推進室：各種就学支援の運営（国際学会海外派遣支援、オンライン国際学会支援、国際研究交流プロジェクト、論文等の外国語校正支援、研究集会開催支援、英語力向上セミナー（年2回）、子育て・研究両立支援および子育て・学業両立支援）、各種セミナーの運営（学振書き方セミナー、図書館活用・文献検索セミナー、大学院進学ガイダンス）

所属学系：	公認心理師プログラム運営室	氏名：	平井 啓
-------	---------------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）
<p>未来共創センターオープンプロジェクトの「心理行動フォーサイトラボ」のプロジェクトベースド・ラーニングとして、新神戸駅のみどりの窓口のと列解消の課題解決に取り組んだ。ソニー株式会社の技術者やマーケティング担当者、JR 西日本テクシア担当者、JR 西日本神戸機械区、JR 西日本新神戸駅関係者と活発な意見交換、現地調査を行い、仕掛け（ナッジ）の立案までを行なった。また、同じくオープンプロジェクトの「ヒトに寄り添うペルソナ創成プロジェクト」において、デジタルクローン生成ワークショップをおこない、7名の大学院生学部生が参加した。</p>

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）
<p>第31回日本行動医学会学術総会 学術総会優秀発表賞</p> <p>AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業、ヘルスケア社会実装基盤整備事業「個別最適化した疾患発症予防支援アプリによる健康行動アドヒアランス向上の要件の解明」研究分担者</p> <p>学術相談（京セラ株式会社）</p>

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など
<p>日本社会心理学会「社会心理学研究」</p> <p>編集委員 TERMS 第三者評価委員会委員</p> <p>NPO 法人 PSV JAPAN 副理事長</p> <p>豊中市立第一中学校 学校運営協議会委員</p>

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など
<p>公認心理師プログラム運営室</p> <p>IMPACT 運営委員会委員</p> <p>教育支援デジタルクローン共同研究講座の運営</p>

所属学系：	公認心理師プログラム運営室	氏名：	高田 紗英子
-------	---------------	-----	--------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

--

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

--

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

トラウマインフォームドケアに関する研修を 6 件（大阪市子ども青年局、大阪市福祉人材養成連絡協議会、高鷲学園 2 回、日本臨床心理士会被害者支援委員会開催の研修会 2 回）および、性暴力被害者支援に関する研修を 1 件（徳島県性暴力被害者回復支援心理士養成研修）行い、トラウマインフォームドケアの普及や性暴力被害者の理解の促進に寄与した。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など

--

所属学系：	公認心理師プログラム運営室	氏名：	松本 恵
-------	---------------	-----	------

(1) 【教育】今年度の教育活動について

教育活動に関する特記すべき事項（大学院・学部にかかわらず、ユニークな実践）

公認心理師養成にかかる心理実践実習学外実習先を新規に 2 件開拓した。

(2) 【研究】今年度の研究活動について

研究活動に関する特記すべき事項（受賞、外部研究資金の受入など）

今年度新規の研究資金受け入れとしては、科学研究費女性事業基盤研究（C）「幼児期の表象する心のめばえを探るーイ
ンクプロット法を用いて」の分担研究者として新たに資金が分配された。

(3) 【社会貢献】今年度の社会貢献活動について

国際交流活動、社会教育活動、行政・民間企業等外部の各種委員、学会活動など

日本ロールシャッハ学会の国際交流委員に就任し、海外活動促進のための会議に参加した。

大阪府委託事業である令和 6 年度発達障がい専門医師養成研修会において、小児科医療に携わる医師 20 名に対し心理
発達検査についての講義を行った。

関西ロールシャッハ研究会事務局副事務局長として、講座の企画運営を行った。

池田市民病院耳鼻科に来院している児童・保護者に対し、心理支援・子育て相談を応援スタッフとして行っている。

(4) 【管理運営】今年度の大学及び部局の管理運営について

大学運営に関わる役職、全学委員会、部局内委員会など